

2025 年度 公益財団法人ふじのくに未来財団

事業報告書、附属明細書

～2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日～

2025 年度事業方針と重点テーマ

公益財団法人設立 10 周年を機に、静岡県の持続可能性向上のために、コミュニティ財団として次の 10 年を見据えた地域コミュニティの課題把握と取り組み方針を確立し、踏み込んだ事業を展開できるような仕組み・体制づくりを目指す。

持続可能な地域づくりのために

- ・SDGs の理念をベースにした草の根の市民活動から社会構造の変革に向けた連動の模索
- ・平時における連携構築を通じた災害支援助成・体制の充実
- ・持続可能な地域資源(人財・情報・財源等)の循環推進
- ・地域財源の有効活用として遺贈寄付の推進
- ・企業、大学、NPO 等との協働事業の推進

※SDGs 17 目標による課題整理は、他セクター連携等のマッチングにおいて一定の使い勝手があったものの、これ以上続けてもあまり発展性は見出しにくいと考えている。むしろ「誰一人取り残さない」、「人権」、「トランスフォーメーション」などの SDGs の考え方をベースに、個々の活動の成果や価値を社会変革のキーとして捉え直す役割を中間支援組織として担いたい。

※SDGs とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。2015 年 9 月の国連サミットで採択、国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成を目指す目標。

(1) 寄付募集

※随時募集 ※一般(企業、団体、個人等)から広く寄付を募る。

ア. 寄付者が選択する「テーマ指定」への寄付募集

- ・社会課題解決型(テーマ指定)736,734 円
子育て支援(675,734 円)
大王製紙株式会社 675,734円
(エリエール えがおにタッチ PROJECT 杏林堂薬局でのエリエール商品売り上げの一部)
2026 年 3 月 31 日 寄付贈呈式(会場 ふじのくに NPO 活動支援センター)
- ・災害支援 61,000 円(団体1、個人7名)
- ・冠基金(計 10,031,562 円、5基金)
せいしん地域のちから基金(1,000,000 円)
2026年 2 月5日 寄付贈呈式(会場 静岡信用金庫本店)
- 静岡トヨタ自動車ハイブリッド基金(1,000,000 円)
2025年9月24日 寄付贈呈式(会場 静岡トヨタ自動車株式会社)
- 世界遺産富士山を未来へプロジェクト基金(1,031,562 円)

2026年2月27日 寄付贈呈式(会場 シーラック株式会社)

エヌエヌ生命災害復興支援基金(5,000,000円)※寄付贈呈式は2026年度実施

2026年4月6日 寄付贈呈式(会場 静岡県 NPO 活動支援センター)

安心堂きらめき未来基金(2,000,000円)※寄付贈呈式は2026年度実施

2026年4月14日 寄付贈呈式(会場 株式会社安心堂本店)

イ. 寄付者が選択する課題解決「団体支援」

NPO 法人静岡塾 100,000円(個人1)

ウ. 財団の公益事業運営支援への寄付募集

①財団への支援

静岡県遊技業協同組合(200,000円)

2026年2月3日 寄付贈呈式(会場 静岡県遊技業協同組合)

株式会社静岡新聞社(250,000円)

2026年4月8日 寄付贈呈式(会場 静岡県 NPO 活動支援センター)

チャリボン(63,838円)

お宝エイド(136,652円)

はがき・切手等(11,824円)

その他個人等 5件(57,395円)

②協賛寄付

寄付付き自販機(計 342,975円、12件)

※設置台数は23件だが、複数台設置の場合もあるため、寄付件数は12件となる

エ. 「賛助会員」募集(計 51,000円、個人会員 9件)

寄付実績 計11,981,980円(昨年比138.9%)

科目	件数	2025年度 寄付額(円)	備考	前年度 寄付額(円)	昨年比
賛助会費	9	51,000	個人9件	58,000	87.9%
財団支援	29	719,709	静岡県遊技業協同組合 200,000 (株)静岡新聞社 250,000 はがき・切手等 11,824 チャリボン(古本寄付) 63,838 お宝エイド 136,652 その他 57,395	399,620	180.1%
テーマ指定	2	736,734	子育て支援 675,734 災害支援(8件) 61,000	2,233,150	33.0%
冠基金	5	10,031,562	静岡トヨタ自動車(株) 1,000,000 静岡信用金庫 1,000,000 シーラック(株) 1,031,562 エヌエヌ生命保険(株) 5,000,000 (株)安心堂 2,000,000	5,620,000	178.5%
団体支援	1	100,000	個人	0	

協賛寄付	12	342,975	寄付付き自販機	317,318	108.1%
計	65	11,981,980		8,628,088	138.9%

参考：2015年4月1日～2026年3月31日の寄付実績 総額 129,470,238円

寄付の種類	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計(円)
賛助会員	656,000	316,480	170,000	263,000	322,000	126,000	28,000	34,000	27,000	58,000	51,000	2,051,480
財団支援	295,698	657,066	1,235,954	691,307	576,358	1,792,141	8,253,152	1,587,444	3,443,057	399,620	719,709	19,651,506
テーマ	583,300	737,400	981,050	748,700	496,150	2,533,831	1,405,691	5,432,622	2,388,709	2,233,150	736,734	18,277,337
冠基金	3,440,000	5,745,500	7,226,500	4,605,500	5,647,860	3,229,000	18,239,711	3,915,500	4,435,500	5,620,000	10,031,562	72,136,633
団体支援	521,000	2,204,000	581,414	782,800	460,000	375,200	100,000	4,500,000	5,050,000	0	100,000	14,674,414
協賛寄付	130,435	188,477	134,280	101,260	302,412	319,185	300,295	273,773	268,458	317,318	342,975	2,678,868
合計	5,626,433	9,848,923	10,329,198	7,192,567	7,804,780	8,375,357	28,326,849	15,743,339	15,612,724	8,628,088	11,981,980	129,470,238

(2) 寄付研究及び啓発

【事業内容】

遺贈についての勉強会や、多様な寄付の方法、ツールを紹介し、寄付による社会貢献への参加を啓発するとともに、NPO 等にとっては資金調達として寄付集めの方法を提供する。寄付者の情報管理データベースの必要性、オンライン寄付決済についての啓発を行う。

ア. 遺贈寄付セミナー

- ・遺贈寄付相談窓口：遺贈相談を随時受付
- ・遺贈セミナー「おひとりさまの遺贈セミナー」

日時：2026年2月9日 14:00～16:00

会場：Zoom によるオンライン開催

参加者 19 名

- ・コピー大賞「遺贈寄付をしたくなるコピー」

財団賞：「想い遺す」ことはありませんか。

ファイナリスト： 託すと決めた。また人生が動きはじめた。

ついに、独り身にも、逝きがいがあった。

逝き方は、生き方。

もう少しこの街に残らせていただきます。

遺産地消。

私のエンディングノートには、続編がある。

「あなたの想い」は、相続される。

物語の後書きに優しさを

この街の景色が、父の形見になりました。

イ. 「募金箱」「寄付付き自販機」「寄付付き商品」等の開発・販売支援

- ・寄付付き商品(7 件)

No	企業名	商品
1	静岡トヨタ自動車(株)	ハイブリッド車及びプラグインハイブリッド車(39 車種)に燃料電池自動車(FCEV)「MIRAI」、バッテリー式電気自動車(BEV)「bZ4X」を加えた 47 車種
2	静岡信用金庫	せいしん「スマイル・リング ～未来のために、今はじめよう。～」
3	シーラック(株)	「バリ勝男くん。」(食料品)

4	(株)季咲亭	「静岡めんま」
5	(株)静岡新聞社	紙齢三万号特集号・関連紙面
6	(株)静岡中央銀行	「しずちゅうSDGs私募債」
7	(株)杏林堂薬局 × 大王製紙(株)	杏林堂で購入されたでエリエールブランド商品

・ダイードリンコ(株)の寄付付き自販機 23 台を設置

静岡県立総合病院(芙蓉会)3F、4F【静岡市】

医療法人社団静寿会 シーサイド浜当目【焼津市】

トヨタユニテッド静岡(株)【掛川市、静岡市】

カナエ工業(株) 本社、喫煙所、工場北【富士宮市】

学校法人常葉大学 静岡草薙キャンパス【静岡市】

(株)朝日メディアブレン(静岡朝日テレビ内)【静岡市】

スルガ銀行(株)東静岡支店【静岡市】、珀寿会 大富陽光園【焼津市】

(公財)静岡県コンテナ輸送振興協会(静岡県浜松内陸コンテナ基地内)【浜松市】

草薙駅北口 2 台((一社)草薙カルテッド)【静岡市】

静岡医療専門学校(静岡医療学園)【静岡市】

星光社印刷(株)【静岡市】

静岡産業大学 情報学部グランド前、図書館前【藤枝市】

レカムジャパン(株)静岡東支店【静岡市】

(株)文理学院【富士宮市他】

あさはた緑地

ウ. 寄付付き商品の締結

・静岡信用金庫 定期預金 せいしん「スマイル・リング ～未来のために、今はじめよう。～」

エ. 古本寄付、書き損じ葉書による寄付集めの方法

・バリューブックス「チャリボン(古本寄付)」

静岡県職員組合事務所、ふじのくに NPO 活動支援センター(東・中)

静岡朝日テレビ、静岡信用金庫、静岡県労働金庫労働組合

静岡県議会事務所等 30 ケ所以上に古本回収箱を設置

・使い損じハガキ、未使用切手の寄贈受付(企業、個人)

オ. ファンドレイジング大会、寄付月間への参加

・寄付月間 2025-Giving December-への参加:「ネンイチ 2025」でエントリー

カ. 寄付者の情報管理データベース構築や IT 活用支援等による資金調達力向上支援

・Salesforce の活用

・コングラントによる決済システム(クラウドファンディング型の活用)

(3) 課題解決活動への資金助成(公募)

※テーマに沿った事業について、事業費の最大 8 割を助成する。

書面審査を経て、公開プレゼンテーション選考委員会で審査する。

助成決定総額 5,788,600円

ア. 冠基金助成事業(助成決定総額 4,730,000 円、8 事業)

【静岡トヨタ自動車ハイブリッド基金】静岡トヨタ自動車(株)の寄付を原資として助成

助成決定総額 800,000円(2事業)

助成事業名	助成申請団体	事業概要	事業費(予算)	助成決定額	助成済額	事業開始日	事業終了日
子育て支援団体がつながる防災力向上ネットワークづくり事業	しずおか子育て防災ネットワーク	発災後早期に子育て世帯への支援をスタートできるよう、静岡県内の子育て支援者および団体(個人も可)を対象に、日頃の取り組みにも取り入れることが可能な防災ワークショップを提供し、防災力の向上を図る。 またそれぞれの子育て支援団体が、災害時に提供できる支援について想定・共有をし合うことで、社会資源の発掘や認知を進めたい。イベントは、西部・中部・東部(伊豆地域)で開催する。	¥605,840	¥484,000	0	2026/4/1	2027/3/31
浜松発・世界とつながる防災カルタプロジェクト—高校生リーダーが拓く多文化共生×防災教育—	NPO法人なかよし学園プロジェクト	オイスカ浜松国際高等学校および公募で集まった静岡県内複数の拠点を舞台に、高校生が地域の小中学生・外国ルーツ住民と協働し、「在住外国人向け」と「世界共通」の2種類の防災カルタを制作する。高校生はリーダー研修を受け、防災ワークショップや交流イベントのファシリテーターとして活動。完成したカルタは浜松での防災啓発とアジア1カ国・アフリカ1カ国の協力校の授業で活用し、静岡発の防災文化を世界と循環させる。	¥1,200,000	¥316,000	0	2026/4/1	2027/3/31
総計(2事業)				¥800,000			

【せいしん地域のちから基金】静清信用金庫の寄付を原資として助成

助成決定総額 1,022,000円(3事業)

助成事業名	助成申請団体	事業概要	事業費(予算)	助成決定額	助成済額	事業開始日	事業終了日
オーガニック×福祉 人と地球に優しくなる 光の谷のマルシェ	みんなのオーガニック食堂 光の谷	静岡市オーガニックビレッジと障がい福祉サービスの普及と発展、障がいがある方を含めた地域共生社会の実現の為に、有機農家、オーガニックや地球環境に配慮した製品の生産者、就労継続支援事業で独自の製品を販売している福祉事業所、障がいがある方個人の出店や活動表現の場所を応援するマルシェを開催した。	¥281,140	¥192,000	¥96,000	2025/10/1	2026/3/31
食品ロスをなくせる「つながるBOX」構築事業	おかえりhug	駿河区宮竹地区の子育て世帯を対象に、助成いただいた食品や日用品・学用品を必要とする子ども食堂や子育て支援団体へ届ける仕組みを構築する。地域の子ども食堂や支援団体、PTAとの対面会議を通じて小拠点となる団体や個人を選定し、連絡網を整備する。さらに行政と協議してHPの運用方法を検討しながら、物品の受け渡しを並行して実施し、持続的に支援が届く基盤を整える。	¥708,320	¥190,000	¥95,000	2025/10/1	2026/3/31
定時制・通信制・不登校児童のための中間的就労の場作り	NPO法人しずおか共育ネットワーク	静岡中央高校、静岡高校定時制、清水東高校定時制等に通う生徒および不登校生徒を対象に、学校だけでは得られにくい実践的な就労体験を通して自己肯定感や社会参加意欲を育み、将来の自立に向けたキャリア形成を支援することを目的とした事業を実施する。あわせて、学校・地域企業・支援団体が連携し、中間的就労の場としての就労支援プログラムを設計するとともに、事前・事後学習を通じたフォローアップ支援を行う。	¥800,000	¥640,000	0	2026/4/1	2027/3/31
総計(3事業)				¥1,022,000	¥191,000		

【弥栄基金】遺贈寄付(遺言執行人:(一社)しんきん成年後見サポート沼津)を原資として助成

助成決定総額 2,908,000円(3事業)

助成事業名	助成申請団体	事業概要	事業費(予算)	助成決定額	助成済額	事業開始日	事業終了日
アートで未来の人づくり応援事業 ～子どもの感性と創造性を育む五感を通じた体験&アートプログラム開発～	アルテ・ブラーサ	2026年1月13日から23日までの2週間、小学生を対象に五感を活用した体験やアーティストの作品展示などを通じ、子どもの感性や創造性を育む「KIDS ARTWEEKS2025」を開催する。さらに、教育関係者を対象に、この事業を県内などで広げていくことを目的として、教育現場で具体的に実践できるアートプログラムをパッケージ化し、提案する。	¥1,537,000	¥872,000	¥436,000	2025/10/1	2026/08/31
須山地区で増えすぎた野良猫対策事業～新たな地域猫活動～	NPO法人保護ねこピリカ	設立7年目となる当団体は、TNRと子猫の保護譲渡活動を通じて地域の野良猫問題に取り組み、着実に成果を上げてきた。近年、須山地区で野良猫が増加しており、地域猫指定区の拡大に着手した。高齢者による未手術猫への給餌には住民と生活環境課と民生委員と連携して対応し、施設入居時の飼育放棄には総合福祉課と協力して保護体制を整備。他地区との横の連携を強化し、新たな地域猫モデルの構築を目指す。	¥826,232	¥660,000	¥330,000	2025/10/1	2026/09/30
コミュニティナースによる「次世代型地域共助システム」構築事業	NPO法人コミナスしずおか	本事業は、高齢者等の支援ニーズ増加や共助の担い手不足といった課題のある沼津市で、コミュニティナースを中心に、LINEを活用した共助マッチングシステムのパイロット運用を行い、気軽に支援依頼や共助参加ができる仕組みを構築するものである。住民向け説明会やサポーター講座を開催し、参加しやすい体制と運営ルールを整える。また、他地域でも導入可能なマニュアルを作成し、将来的な展開と自走化につながる共助モデルを確立する。	¥1,720,000	¥1,376,000	0	2026/4/1	2027/09/30
総計(3事業)				¥2,908,000	¥766,000		

イ. テーマ指定助成事業(助成決定総額 1,058,600円、3事業)

【子育て支援事業】(株)杏林堂薬局 × 大王製紙(株)による寄付を原資として助成

助成決定総額 477,000円(1事業)

助成事業名	助成申請団体	事業概要	事業費(予算)	助成決定額	助成済額	事業開始日	事業終了日
子どもアドボカシー普及啓発事業	子どもアドボカシーセンターしずおか	2023年4月に子ども家庭庁が創設され、子ども基本法が施行された。この法律は子ども権利条約の精神を実現する理念に基づいたものである。私たちは、子どもが思いや意見を表現できるよう支援し、その環境を整える子どもアドボカシーの事業を展開する。静岡県民を対象に「子ども権利、なんでやねんすごらく」を活用した研修会を行い、体験を通じて対話できる場をつくり、さらに普及啓発のためタペストリーやリーフレットを制作する。	¥596,692	¥477,000	¥230,000	2025/10/1	2026/12/31
総計(1事業)				¥477,000	¥230,000		

【環境保全事業】(株)CPコスメティクスによる寄付を原資として助成

助成決定総額 281,600円(1事業)

助成事業名	助成申請団体	事業概要	事業費(予算)	助成決定額	助成済額	事業開始日	事業終了日
静岡里山の健康な広葉樹の森づくり再生促進継続事業	NPO法人静岡山の文化交流センター	都市近郊の里山では、かつての茶畑が竹林化し荒廃する例が増えている。本事業は川合山や有度山を対象に竹林を伐採整備し、広葉樹を植えることで健全な里山の再生を目指すものである。苗木を健やかに育てるためには、下草狩りや蔓切りといった伝統的な保全作業の継続が不可欠である。また、里山水源の森の伐採後に植林が放棄された貝伏山や尾呂久保においても下草狩りを実施し、持続的な環境保全に取り組んだ。	¥1,000,000	¥281,600	¥140,000	2025/9/1	2026/03/31
総計(1事業)				¥281,600	¥140,000		

【災害支援基金】※理事による書面審査のみ

助成決定総額 300,000円(1事業)

助成事業名	助成申請団体	事業概要	事業費(予算)	助成決定額	助成済額	事業開始日	事業終了日
令和7年台風15号細江ボランティアセンター運営	NPO法人御前崎災害支援ネットワーク	台風15号の竜巻被害があった牧之原市細江地区で、当ネットワークが単独で被災者支援活動していたら、細江コミュニティセンター長より「この地域全体を支援して欲しい、加全面協力するのでボランティアセンターを立ち上げて活動して欲しい」と依頼がありました。牧之原市災害ボランティアセンターと協議し、後方支援としてニーズの共有をするなど連携して当ネットワークで「細江災害ボランティアセンター」を開設運営した。	¥636,000	¥300,000	¥300,000	2025/9/6	2025/10/26
総計(1事業)				¥300,000	¥300,000		

エ. 公開プレゼンテーション選考委員会(冠基金助成事業、テーマ指定助成事業)

【選考委員】

築地 茂 氏【(株)静岡新聞社 論説員】委員長

杉山 重人 氏【税理士法人アップル】

大原 みちの 氏【焼津市市民活動交流センター「くるさ〜」・静岡 2.0 代表】

中野 俊夫 氏【(株)日本政策金融公庫】

天野 浩史 氏【(公財)ふじのくに未来財団 理事】

・第1回:2025年8月1日 13:30~17:00

・第2回:2026年3月4日 13:30~17:00

於:ふじのくに NPO 活動支援センター・オンライン(Zoom)

オ. 助成事業報告発表会(年次フォーラム 2025&助成事業報告会)

日時:報告会:2025年11月26日 13:00~16:00

内容:第1部 ワーキンググループ中間報告・ディスカッション

第2部 助成事業報告ポスターセッション

会場:報告会:静岡市清水文化会館マリナートギャラリー

交流会:清水クロス(静岡市清水区真砂町5-22) 17:00~20:00

参加者:報告会:39名,交流会:30名

(4)セミナー等、人材育成

【事業内容】

社会課題解決のために必要な資金調達支援等のワークショップやセミナー等の開催による活動支援、人材育成を行う。

ア.「セミナー」「ワークショップ」等の開催

※ふじのくに NPO 活動支援センター(FNC)業務内で実施、別紙参照

イ. 人材育成(FNC業務内で実施、別紙参照)

・NPO や中間支援スタッフ等の人材育成

・NPO 女性リーダー等活動支援事業

ウ. ファンドレイジング支援

・<ろうきん>働く子どもの明日を応援プロジェクト事務局

(5) コンサルティング事業

【事業内容】

地域の社会課題解決に取り組む基盤の脆弱な小規模 NPO 等に対してコンサルティングを実施し、活動の成果を高めるとともに団体の基盤整備を支援する。基盤整備支援のために、職業的スキルを活かしたプロボノやボランティア等を活用した解決方法等の展開も目指す。また、企業の社会貢献活動についてのコンサルティングを実施する。

- ア. プロボノ・専門家等募集・登録の仕組み等を構築
 - ・司法書士、公認会計士、社会保険労務士による相談
- イ. 中間支援及び NPO 基盤整備・コンサルティング等
 - ・NPO コンサルティングの実施
- ウ. CSRコンサルティング
 - ・企業のCSR相談、SDGs相談
 - ・NPO と企業等のマッチング事業(FNC業務内で実施、別紙参照)

(6) 社会課題とその解決に関する調査研究事業

【事業内容】

中間支援業務従事者との意見交換等で地域課題とニーズ発掘を行い、情報共有・発信を行う。また、地域で活躍する団体からのヒアリングや他組織主催の会議等への参加により、各地域の課題を把握した。課題に関する情報整理と優先順位を明確化する。

- ア. 地域課題とそのニーズに関する勉強会等の開催
 - ・県内中間支援スタッフ交流会における意見交換
 - ・地域金融機関、企業、NPO 推進議連等との勉強会
- イ. 課題把握の仕組みづくり検討
 - ・地域部活に関する調査研究

(7) 情報収集及び情報発信事業

【事業内容】

社会課題やその解決、本財団の機能や実施事業に関する情報をミニ説明会や Web サイト、ソーシャルメディア、紙媒体等で広く発信し社会課題とその解決への興味や当事者意識を啓発し、社会課題解決への多様な参画方法を提示する。

- ア. ふじのくに未来財団助成事業の説明、報告会開催
 - 日時: 2025 年 11 月 26 日 13:30~16:00
 - 内容: 第 1 部 ワーキンググループ中間報告・ディスカッション
 - 第 2 部 助成事業報告ポスターセッション
 - 会場: 静岡市清水文化会館マリナートギャラリー
- イ. 情報発信
 - ・ホームページでの情報発信、月 1 回のメールマガジン(3,418 読者)、SNS による随時情報発信
 - ・活動報告書冊子作成/1000 部印刷、寄付者や公共施設等へ郵送

(8) 行政・企業・NPO 等との協働事業

【事業内容】

社会課題は多くの場合複数の分野にまたがるため、多様なステークホルダーが存在する。その課題を解決するためには、市民、行政、企業、NPO等、個々のステークホルダーが持つ利害関係を調整する力が必要とされる。本財団はそれらの利害関係を調整し協働をスムーズに推進することで、社会課題解決を円滑かつ効果的に進める。

ア. 講師、委員派遣等

- ・委員等：焼津市地域未来まちづくり公益活動事業補助金審査員
藤枝市市民活躍まちづくり補助制度審査会委員
菊川市協働推進委員
沼津市民間支援まちづくり活動支援事業アドバイザー
しずおか防犯まちづくり県民会議会員
静岡県災害ボランティアネットワーク委員
静岡市市民自治推進審議会委員
静岡市協働パイロット事業審査委員会委員
一般社団法人美しい伊豆創造センター ジオパーク委員会 委員
令和7年度こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」審査
- ・講師等：協創シンポジウム 2025 NPO が事業継続・発展するための地域の資金提供のしくみ
(みえ市民活動ボランティアセンター主催)
令和7年度災害支援活動を行う県域団体の情報交換会
(社会福祉法人静岡県社会福祉協議会主催)

イ. ふじのくに NPO 活動支援センター及びふじのくに東部 NPO 活動支援センター運営管理(別添)

ウ. ふじのくにソーシャルビジネス支援ネットワーク

エ. 一社)全国コミュニティ財団協会会員

- ・NPO 法人会計基準協議会会員
会員メーリングリストによる NPO 会計基準に関する情報共有(随時)
- ・静岡県地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)
- ・一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク(略称:SDGs ジャパン)会員
- ・後援
 - ①東部合同難病医療・生活・就労相談会(静岡県難病団体連絡協議会)
2025年9月14日 於:静岡県総合社会福祉会館(シズウェル)
2025年10月19日 於:浜松市福祉交流センター
2025年11月23日 於:沼津プラザヴェルテ
 - ②みんなで作る竹スタードームとアートひろば(清水あすなろ福祉会 ともの家)
2026年2月7日開催 於:静岡市清水船越堤公園
 - ③第13回親守詩静岡県大会(親守詩静岡県大会実行委員会)
2026年3月8日開催 於:日本平ホテル(静岡市)
 - ④特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会 第18回成果報告会
2026年3月22日開催 於:早稲田大学西早稲田キャンパスと Zoom によるハイブリッド開催

オ. ヒアリング・取材対応等

- ・寄付贈呈式、イベント等のプレスリリースの実施

すべての寄付贈呈式に対してプレスリリースを実施。

・メディア掲載(10件) ※これ以外、ニュース等で放映されたものもあった。

	日付	内 容	媒 体
1	2025/4/7	エリエール えがおにタッチPROJECT 杏林堂での売り上げ一部を「ふじのくに未来財団」へ寄付	中日Bizナビ
2	2025/5/1	若者主体30団体の図鑑に 学生企画 社会貢献熱意「可視化」	静岡新聞、あなたの静岡新聞
3	2025/8/21	不登校関わり方 地域支援考える	静岡新聞、あなたの静岡新聞
4	2025/9/3	NPO参画促進へ意見交流会 静岡女性リーダーが登壇	静岡新聞、あなたの静岡新聞
5	2025/9/13	不登校児に居場所を 県内支援団体 向き合い方議論	静岡新聞、あなたの静岡新聞
6	2025/9/26	静岡トヨタ自動車、NPO活動支援へ 売り上げ一部寄付	静岡新聞、あなたの静岡新聞
7	2026/2/4	県遊技業協同組合 売上一部寄付 ふじのくに未来財団へ	静岡新聞、あなたの静岡新聞
8	2026/3/5	「せいしん地域のちから基金」ふじのくに未来財団に100万円を寄付	静岡ビジネスレポート
9	2026/3/7	富士山保全へ103万円寄付 シーラック	静岡新聞、あなたの静岡新聞
10	2026/3/20	富士山を未来へプロジェクト基金に100万円を寄付	静岡ビジネスレポート

(9)組織に関する事項

ア. 評議員会

① 2025年6月18日 2025年度第1回定時評議員会

第1号議案 第10期貸借対照表、損益計算書、及び財産目録、事業報告書承認の件
以上原案通り承認

イ. 理事会

① 2025年5月29日 2025年度第1回理事会

第1号議案 第10期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び財産目録等承認の件
以上原案通り承認

第2号議案 2025年度定時評議員会の招集の決定に関する件

以上原案通り承認

報告事項

代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告

- 1) 寄付状況
- 2) ワーキンググループ進捗報告
- 3) ふじのくに NPO 活動支援センターの移転について

② 2025年9月2日 2025年度第2回理事会

決議事項なし

報告事項

代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告

- 1) 寄付状況
- 2) ワーキンググループ進捗報告
- 3) ふじのくに NPO 活動支援センターの移転について
- 4) 助成事業報告会について
- 5) その他の意見

③ 2025年11月6日 2025年度 臨時理事会

決議事項なし

報告事項

代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告

- 1) 寄付状況
- 2) 助成事業について
- 3) コンプライアンス委員会について
- 4) ワーキンググループ進捗報告
- 5) 年次フォーラム 2025&助成事業報告会開催について
- 6) その他

④ 2026年3月3日 2025年度第4回理事会

第1号議案 第11期(2026年4月1日から2027年3月31日まで)事業計画書案、予算書案承認の件

以上原案通り承認

第2号議案 2026年度役員候補者選考委員会発足及び委員選任案

以上原案通り承認

報告事項

代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告

- 1) 寄付状況
- 2) 2025年度第2回助成事業公募状況
- 3) 2026年度静岡県 NPO 活動支援センター運営業務に係る企画提案募集
- 4) その他

ウ.コンプライアンス委員会

日 時:2025年9月10日

参加者:都築直人(委員長)、杉本直人(外部委員)、千野和子(委員)、木南妙子(事務局)

議 題:コンプライアンス研修の実施について

エ.コンプライアンス研修(職員対象)

日 時:2025年9月5日

参加者:木南妙子、須田亜紀、千野和子、溝口和寿、村上茂之

議 題:

- 1) 県へ提出した「個人情報の取扱いに関する点検表」について
- 2) その他意見交換

令和7年度
ふじのくにNPO活動支援センター運営業務
実施報告書

令和8年4月

公益財団法人 ふじのくに未来財団

目 次

I	業務の目的、実施拠点、基本方針	1
1	業務の目的	1
2	実施拠点	1
3	基本方針	1
II	業務の実施報告	2
1	NPOや中間支援組織と県との間のコーディネート	2
2	相談対応	3
3	NPO法に基づく認定及び特例認定の取得を目指すNPO法人の支援	6
4	相談事例の集約及び相談事例集の作成	8
5	NPO向け講座等の開催	9
6	中間支援人材の支援	14
7	NPOと企業等とのマッチング支援	18
8	自治会等の地域コミュニティとNPOとの連携・協働事業の支援	20
9	NPO、社会貢献活動等に関する情報発信	24
10	その他の業務	25
	添付資料	26

I 業務の目的、実施拠点、基本方針

1 業務の目的

ふじのくにNPO活動支援センターの運営を通じ、NPOに関する相談対応、NPOに関わる人材の育成、市町の市民活動センター未設置地域におけるNPO活動の支援、NPO活動に関する情報の収集・発信等を行うことにより、NPO活動を活性化する。

2 実施拠点

- ・ ふじのくにNPO活動支援センター（略称：FNC）
静岡市駿河区南町 14-1 水の森ビル2階
- ・ 東部駐在所：ふじのくに東部NPO活動支援センター（略称：東部FNC）
沼津市大手町 1丁目 1-3 沼津産業ビル2階（静岡県東部県民生活センター内）

3 基本方針

県内の非営利組織、企業、地域コミュニティなど、多様な主体の連携を促進し、社会課題の解決を支援するため、以下の3つを重点目標とし、市町の市民活動センターと共有しながら県内の中間支援機能を強化し持続可能なNPO活動の支援を目指す。

1) 協働の「コーディネート力」の強化

多様な主体による協働が円滑に連携できるよう、適切なマッチング力や効果的なコーディネート力を目指す。各主体の特性やニーズを十分把握し、パートナーとのコミュニケーション支援力を習得する。

2) 「協働」から「共創」

多様な主体による協働を推進するために、新しい価値や解決策を生み出す「共創」の視点を重視する。そのため、「共創」の考え方や手法を学ぶ機会を提供する。

3) 基盤整備の強化

NPOや中間支援組織の社会的信頼度を向上させるとともに、組織・事業運営の持続可能性を高めるための支援を強化する。コンサルティングの充実、ICTの活用推進、中間支援組織の相談対応力の向上、人材育成プログラムの拡充を進める。

II 業務の実施報告

1 NPOや中間支援組織と県との間のコーディネート

(1) 県との月例会議による継続的なコミュニケーション

センター業務の連携や課題の共有のために月例会議を開催した。また、県や市町センターと随時円滑なコミュニケーションを取り、NPOに関する最新情報や相談事例を共有し意見交換を行った。

・実施結果：

1) 月例会議（センター会議）の開催（11回）

No.	開催日	場 所
第1回	令和7年4月16日（水）	ふじのくにNPO活動支援センター
第2回	5月19日（月）	県庁
第3回	6月11日（水）	ふじのくにNPO活動支援センター
第4回	7月16日（水）	県庁
第5回	8月13日（水）	ふじのくにNPO活動支援センター
第6回	9月25日（木）	県庁
第7回	10月15日（水）	ふじのくにNPO活動支援センター
第8回	11月17日（月）	県庁
第9回	12月17日（水）	ふじのくにNPO活動支援センター
第10回	令和8年1月19日（月）	県庁
第11回	2月25日（水）	ふじのくにNPO活動支援センター

(2) 中間支援組織との継続的なコミュニケーション

市町の市民活動センタースタッフとの意見交換を通じ、NPOのニーズや課題を把握し、県のNPO施策に反映させた。

・実施結果：中間支援スタッフ研修の事前・事後アンケートや終了後の自由意見交換等を通じてニーズや課題を把握し、月例会議（センター会議）での情報共有を行うとともに、研修・講座の企画等に反映させた。

2 相談対応

(1) NPO等の相談対応

- ・対 象：中間支援団体等、NPO等、個人、企業、行政、その他（自治会、学校等）
- ・受付方法：原則予約制、ふじのくにNPO活動支援センター及びふじのくに東部NPO活動支援センターを一本化して受付（オンライン予約システムも活用）
- ・対応日時：月曜日～金曜日（土曜日、日曜日、祝日、12月28日から1月3日を除く。）
午前10時～午後7時
※ふじのくに東部NPO活動支援センター（東部駐在所）における対応日は週1日以上、対応時間は午前10時から午後5時まで、職員不在時はふじのくにNPO活動支援センターへの電話転送等で対応
- ・相談方法：ふじのくにNPO活動支援センター及びふじのくに東部NPO活動支援センターの窓口、電話、メール、オンライン、FAX、必要に応じ出張等により対応を行った。
- ・相談体制：基本的にセンタースタッフが対応した。NPO設立、定款変更等（NPO法事務）、資金調達、事業運営、組織運営、認定・特例認定、解散、広報、協働・CSR等に関する相談に対応し、必要に応じて専門家や他の支援機関につなげた。ICT活用に関しては県デジタル戦略課の「ICTエキスパート派遣事業」の活用を促した。
- ・実施結果：令和7年度 相談件数 770件（FNC 448件、東部FNC 322件）
※令和6年度 相談件数 1,010件（FNC 575件、東部FNC 435件）

(2) NPO出張相談会

- ・目 的：市町センター未設置市町及び周辺市町のNPO支援
- ・対 象：県内NPO等
- ・実施内容：NPO法人設立及びNPO相談全般
- ・場 所：オンライン会議システム等の利用、団体事務所等出張相談希望団体と調整
- ・実施結果：要請なし

総括（成果と課題）

令和7年度は、オンライン化の推進や広域的な支援ニーズの掘り起こしが進んだ一方、「法人の解散・継続」に関する課題が改めて浮き彫りとなった。今後は、これまでの連携実績を活かしつつ、より専門性の高い組織基盤強化支援の充実を図る必要がある。

1) 相談件数及び所在地の動向

- ・ 令和7年度の相談件数は合計770件、前年度比で76.2%（FNC:77.9%、東部FNC:74.0%）となり、昨年度の急増（前年度比119.2%）からは落ち着きを見せたものの、両センター合わせて月平均約64件の相談に対応しており、依然として安定した相談需

要が存在している。

- ・ 特に、「県西部」からの相談が112件（前年度比124.4%）と増加し、地域的な広がりを見せた。

2) 相談形式の動向

- ・ 相談形式では、電話が293件（38.1%）やセンターへの来所（22.5%）が依然として主流であるが、FNCにおけるオンライン相談が前年度比117.2%（68件）と増加し、デジタル化への対応が進んでいる。
- ・ 地域の相談者のIT環境やリテラシーに応じた、対面とオンラインを活用した柔軟な窓口体制の維持が重要である。

3) 相談内容の動向

- ・ 相談内容（延べ1,201件、重複あり）では、定款変更等の「NPO法関連」が323件（26.9%）で最多となり、法人の組織基盤の維持に関する相談が中心となった。
- ・ 「解散」に関する相談は全体では減少（昨年度比61.2%）したものの、東部FNCでは32件（前年度比118.5%）と増加傾向にある。昨年度の傾向と同様、登記不備や世代交代の困難さが継続しており、法人の設立から解散までのライフサイクルを見据えた継続的な組織運営支援が求められている。

4) センター別の比較

- ・ 相談者属性：FNCでは「NPO等」が74.1%と大半を占める一方、東部FNCでは「NPO等（66.5%）」に続き「中間支援団体等」が21.7%（70件）と高い割合を維持しており、市町センターや行政との連携が進んでいる。企業の相談も一定数あり、今後はこれら多様な主体とNPOを繋ぐ「コーディネート機能」のさらなる強化が求められる。
- ・ 相談者所在地：FNCは県中部（63.6%）、東部FNCは県東部（71.1%）を主軸としている。
- ・ 相談形式：FNC及び東部FNCとも「電話」相談が最多であった。

表1 相談者属性比較（センター別）

属 性	FNC		東部FNC		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%
中間支援団体等	27	6.0	70	21.7	97	12.6
NPO等	332	74.1	214	66.5	546	70.9
個人	36	8.0	7	2.2	43	5.6
企業	34	7.6	13	4.0	47	6.1
行政（市民活動以外）	7	1.6	4	1.2	11	1.4
その他	12	2.7	14	4.3	26	3.4
合 計	448	100.0	322	100.0	770	100.0

表2 相談者所在地比較（センター別）

所在地	FNC		東部FNC		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%
伊豆	14	3.1	41	12.7	55	7.1
県東部	49	10.9	229	71.1	278	36.1
県中部	285	63.6	14	4.3	299	38.8
県西部	85	19.0	27	8.4	112	14.5
その他	15	3.3	11	3.4	26	3.4
合計	448	100.0	322	100.0	770	100.0

※伊豆：伊豆市、伊豆の国市、下田市、西伊豆町、河津町、南伊豆町、東伊豆町、松崎町
 県東部：沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、裾野市、小山町、
 函南町、清水町、長泉町
 県中部：静岡市、焼津市、島田市、藤枝市、牧之原市、川根本町、吉田町
 県西部：浜松市、磐田市、袋井市、掛川市、湖西市、菊川市、御前崎市、森町

表3 相談形式比較（センター別）

相談形式		FNC		東部FNC		合計	
		件数	%	件数	%	件数	%
FNC 単 独 対 応	センターへの来所	118	26.3	55	17.1	173	22.5
	電話	145	32.4	148	46.0	293	38.1
	メール	113	25.2	52	16.1	165	21.4
	オンライン	68	15.2	57	17.7	125	16.2
	その他（FAX等）	1	0.2	2	0.6	3	0.4
	出張相談会（その他）	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	出張（その他）	3	0.7	7	2.2	10	1.3
市町センター等と連携対応		0	0.0	1	0.3	1	0.1
合計		448	100.0	322	100.0	770	100.0

添付資料

添付1：相談対応

3 NPO法に基づく認定及び特例認定の取得を目指すNPO法人の支援

- ・目的：認定及び特例認定の取得を目指すNPO法人の取得支援
- ・対象：認定及び特例認定の取得を目指すNPO法人
- ・実施内容：ふじのくにNPO活動支援センターの窓口、電話、メール、オンライン、出張（法人事務所への訪問）等により、認定及び特例認定の取得の要件達成に向けた課題の解決や申請書類の作成等に係るコンサルティングを継続的に行う。必要に応じて会計士等の専門家へつなげる。
- ・成果目標：認定・特例認定NPO法人への関心を申請につなげる
認定・特例認定取得申請希望団体の申請支援
- ・実施結果：コンサルティング実施 5法人（伊豆1、県東部1、県中部1、県西部2）

No.	法人名	課題と目標
1	ぴくにつく (富士市)	申請目標時期：令和9年8月 PST基準の選択：相対基準 申請に向けた主な課題：ガバナンス、寄付者の管理、会計処理
2	COMPAS (磐田市)	申請目標時期：令和7年11月提出、現地調査 1/22 実施 PST基準の選択：相対基準 申請に向けた主な課題 認定期間：2021年03月25日～2026年03月24日
3	アップルビネガー 音楽支援機構 (藤枝市)	申請目標時期：令和8年12月 PST基準の選択：検討中 申請に向けた主な課題：寄付者名簿の整備、ガバナンスの確認等
4	伊豆下田経済新聞 ネットワーク (下田市)	申請目標時期：令和10年9月 PST基準の選択：検討中 申請に向けた主な課題
5	こども未来機構 (磐田市)	申請目標時期：令和8年10月 PST基準の選択：相対基準 申請に向けた主な課題：認定NPO法人についての理解度を増すこと

総括（成果と課題）

本年度は新たな認定申請団体はなかった。磐田市のNPO法人COMPASは認定更新申請を希望したが、現地調査で書類不備が判明し、更新申請を取り下げた。事前に備え置き書類についての説明を行っていたが、その理解が十分とは言えなかった。NPO法人側

も全員が本業の傍らで活動を実施しているため事務作業に十分時間を割けなかったし、現地で書類の確認をするという作業しなかった。

将来的に4法人が認定NPO法人申請を計画している。認定取得のためには、早い段階から支援を開始し、きめ細やかな伴走支援が必要である。

添付資料

添付2：NPO法に基づく認定及び特例認定の取得を目指すNPO法人の支援

4 相談事例の集約及び相談事例集の作成

- ・目的：市町の市民活動センター等中間支援組織における相談業務の支援
- ・対象：県内中間支援業務従事者
- ・実施結果：ふじのくにNPO活動支援センター及びふじのくに東部NPO活動支援センターにおけるNPO相談事例（令和7年4月～令和8年2月）を取りまとめ、令和6年度版（130事例）を更新した「令和7年度相談事例集」（133事例）を作成した。
また、本事例集は、中間支援スタッフメーリングリストを通じて、県内中間支援業務従事者33人（26団体）に共有した。
なお、事例の整理に当たっては、相談対応時の実務に活用しやすいよう、論点の明確化や表現の統一等を行った。
今年度は、運営困難に関する解散相談の増加を踏まえ、「NPO法人の解散」に、役員不在・選任懈怠がある場合の手続選択の考え方等を追加した。

添付資料

添付3：相談事例の集約及び相談事例集の作成

5 NPO向け講座等の開催

- ・目的：NPOの組織基盤の強化に資するテーマの講座を開催し、組織の基盤を強化し、持続可能な運営を支援する。
- ・対象：NPO法人の事務担当者等（設立予定、設立直後を含む）
- ・実施結果：NPOを対象とした講座 4回実施

【第1回】テーマ：バックオフィス力の向上

事業名	NPO法人事務講座：基礎編～年間を通じた事務手続きやポイントを学ぼう～
日時	令和7年5月22日（木）13:30～15:10
場所	ハイブリッド開催（対面／オンライン） ・対面：ふじのくにNPO活動支援センター ・オンライン：Zoom ミーティング
講師	村上 茂之（公益財団法人ふじのくに未来財団、ふじのくに東部NPO活動支援センター）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 23 団体：NPO法人9、中間支援センター4、任意団体3（法人化を検討中2、NPO法人申請中1）、士業1、行政1、個人5（法人化検討中3、NPO法人申請中1） ・ 計31人：対面6人、オンライン21人、アーカイブ4人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 5人
目的	NPO法人の事務担当者等を対象に、年間を通じた事務手続きの全体像と法令に基づく運営の基本を理解し、適正かつ安定した組織運営につなげることを目的とする。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. NPO法人の特徴と運営の基本 2. 年間スケジュールと事務手続きの流れ 3. 社員総会・理事会の運営と必要書類 4. 事業報告・会計書類の作成と提出 5. 定款変更・登記等の留意点
アンケート結果	<p>アンケート回答率：61.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 94.7%
概要	本講座は、NPO法人の事務担当者等を対象に、年間を通じた事務手続きと実務上の留意点を体系的に理解することを目的として開催した。社員総会や理事会の運営、事業報告・会計書類の作成・提出、定款変更や登記手続き等について、時系列に沿って整理し解説した。

	アンケートでは、満足度・理解度ともに 100%と高い評価を得ており、年間の事務の流れや必要書類の整理に対する理解が深まったことがうかがえる。一方で、より実務的な内容や個別相談を求める声もあり、今後はテーマ別講座やフォローアップの充実が課題である。
--	---

【第2回】テーマ：バックオフィス力の向上

事業名	NPO法人事務講座～信頼される会計の基本から実践まで～ 【基礎編】これだけは押さえて！NPO会計の基本
日時	令和7年10月21日（火）13:30～15:30
場所	ハイブリッド開催（対面／オンライン） ・ 対面：ふじのくにNPO活動支援センター ・ オンライン：Zoom ミーティング
講師	久保田 光彦 氏（久保田総合会計事務所） 公認会計士・税理士・中小企業診断士
参加者	・ 15 団体：NPO法人7、中間支援センター2、一般社団法人1、任意団体3（法人化検討中1、NPO法人設立予定1）、行政2 ・ 計20人：対面5人、オンライン11人、アーカイブ4人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 3人
目的	NPOの会計担当者等を対象に、会計の基礎知識から実務対応、制度改革への対応までを段階的に学ぶ機会を提供し、組織運営力および説明責任の向上を図る。
内容	1. NPO会計の基礎知識 2. 会計書類の作成と基本的な実務 3. 仕訳・勘定科目の考え方 4. 会計ソフトの活用 5. 質疑応答（事前質問対応含む）
アンケート結果	アンケート回答率：45.0% ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 77.8% ・ 業務・活動への活用意向 77.8%
概要	本講座は、NPO会計の基礎から実務までを体系的に学ぶ機会として開催した。参加者の約半数が会計未経験であり、基礎知識の整理に対するニーズが高い状況であった。 講座では、会計の基本ルールや書類作成、仕訳の考え方等について具体的に解説し、実務に直結する内容とした。 アンケートでは満足度は100%と高評価であったが、理解度および活用意向は77.8%であり、「難易度が高い」「個別相談の機会がほしい」

	との意見も見られた。今後はレベル設定やフォローアップの工夫が必要である。
--	--------------------------------------

【第3回】テーマ：バックオフィス力の向上

事業名	NPO法人事務講座～信頼される会計の基本から実践まで～ 【応用編】実務で活かすNPO会計
日時	令和7年11月11日（火）13:30～15:40
場所	ハイブリッド開催（対面／オンライン） ・ 対面：ふじのくにNPO活動支援センター ・ オンライン：Zoom ミーティング
講師	久保田 光彦 氏（久保田総合会計事務所） 公認会計士・税理士・中小企業診断士
参加者	・ 15 団体：NPO法人5、中間支援センター3、一般社団法人2、任意団体3（法人化検討中1、NPO法人設立認証申請・縦覧中1）、行政2 ・ 計19人：対面5人、オンライン12人、アーカイブ2人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 3人
目的	NPOの会計実務担当者等を対象に、実務に即した会計処理や制度対応について理解を深め、実践的な運営力の向上を図る。
内容	1. 会計の基本と必要書類の整理 2. 日常の記帳と決算手続き 3. NPO特有の会計処理と税務対応 4. 制度対応（インボイス制度・電子帳簿保存法） 5. 質疑応答
アンケート結果	アンケート回答率：73.7% ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 92.9% ・ 業務・活動への活用意向 85.7%
概要	本講座は、NPOの会計実務に関する理解を深めることを目的として開催した。参加者は多様な団体から構成され、会計処理や制度対応に対する課題意識の高さが見られた。 アンケートでは満足度100%、理解度92.9%、活用意向85.7%と高い評価を得ており、特に実務に直結する内容への評価が高かった。一方で、より具体的な演習や個別対応を求める声もあり、今後は段階的かつ実践的なフォローアップの充実が求められる。

【第4回】テーマ：バックオフィス力の向上

事業名	NPO法人事務講座：登記手続き編～実務に役立つ登記のポイント～
-----	---------------------------------

日 時	令和8年1月14日(水) 13:30~15:20
場 所	ハイブリッド開催(対面/オンライン) ・ 対面:ふじのくにNPO活動支援センター ・ オンライン:Zoom ミーティング
講 師	青島 澄恵 氏(静岡地方法務局 法人登記部門 登記官)
参 加 者	・ 19 団体: NPO法人8、中間支援センター6、任意団体2 (NPO法人設立準備中1、同設立認証申請中1)、行政1、企業等2 (金融機関1、NPO法人設立検討中1) ・ 計 26 人: 対面5人、オンライン19人、アーカイブ2人 ・ その他: 静岡県 県民生活課 1人、FNC 4人
目 的	法務局の登記官を講師に迎え、NPO法人に求められる登記手続の意義や実務上の注意点について学ぶ機会を提供することで、登記に関する理解の向上を図り、NPO法人の組織基盤の強化につなげることを目的とする。
内 容	・ 法人登記の意義と基本 ・ NPO法人に必要な登記事項 ・ 設立・役員変更等の登記手続き ・ 申請方法と留意点 ・ よくあるミスと対策 ・ 質疑応答 ほか
アンケート結果	アンケート回答率: 84.0% ・ 参加者満足度: 講座全体 81.0% ・ 講座内容の理解度向上 85.7% ・ 業務・活動への活用意向 85.7%
概 要	本講座は、NPO法人の登記手続きに関する理解を深めることを目的として開催した。法務局登記官による実務に即した解説により、役員変更登記や添付書類、申請期限等について具体的に学ぶ機会となった。 アンケートでは約8割が理解度向上および活用意向を示し、実務に直結する内容として評価された。一方で、内容の難易度に関する指摘もあり、参加者の経験差に応じたレベル設定の必要性が明らかとなった。今後は講座の位置付けを明確化するとともに、基礎的な内容との組み合わせによる支援が求められる。

総括(成果と課題)

NPOを対象とした講座の実施: 4回/4回

本事業では、NPO法人の事務・会計・登記に関する実務講座を実施し、年間の事務手

続きや会計処理の基礎から実務対応までを体系的に学ぶ機会を提供した。実務に直結する内容であったことから、参加者の満足度・理解度はいずれも高く、実務経験の浅い職員から中間支援スタッフまで幅広いニーズに対応することができた。

フォローアップアンケートからは、会計処理の見直しや登記実務への理解の深まりなど、講座内容が実務に活用されている様子がうかがえたほか、他団体との情報交換や相談につながるなど、ネットワーク面での効果も見られた。一方で、団体内の体制や時間の制約により実践に至らないケースや、参加者の経験差による理解度のばらつきも見られた。

また、講座によっては参加者数が伸び悩む傾向もあった。今後は、段階的な講座設計やフォローアップ機会の充実、テーマ設定や広報手法の工夫により、実務活用の促進と参加拡大を図る必要がある。

本事業を通じて、NPO法人の適正な運営を支える基礎的な実務知識の普及と、組織運営基盤の強化に一定の成果が得られた。

添付資料

添付4：NPO向け講座等の開催

6 中間支援人材の支援

- ・目的：中間支援スタッフの基礎知識の向上とICT活用による支援力強化の交流・学びの場を提供する。
 - ・対象：市町の市民活動センタースタッフ等の中間支援業務従事者等
 - ・実施内容：市民活動センター等を対象とした研修や交流事業 4回実施
- 【第1回】テーマ：中間支援の役割と基礎知識

事業名	県内NPOセンター情報交換・交流ミーティング
目的	県内の中間支援スタッフが一堂に会し、各センターの体制や事業方針を共有するとともに、日常業務における課題や工夫を共有することで、相互の学びと連携の促進を図る。
日時	令和7年5月9日（金）13:30～15:00
場所	オンライン会議システム（Zoom ミーティング）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9団体（中間支援8、所轄庁1） ・ 計16人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各センターの体制・取組の共有 ・ 日常業務に関する課題の共有（指定管理、団体支援、世代交代等） ・ 意見交換（相談対応や支援の工夫等）
アンケート結果	<p>アンケート回答率：88.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：研修全体 100% ・ 研修内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 100%
概要	<p>本研修は、年度当初に県内の中間支援スタッフが参加し、各センターの体制や重点事業、地域の動向を共有するとともに、日常業務における課題について意見交換を行う場として実施した。</p> <p>意見交換では、指定管理料の確保、スタッフ交代に伴う団体との関係維持、活動団体の高齢化と事業承継など、現場で共通する課題が共有された。</p> <p>アンケートでは、参加者全員が「他センターの取組が参考になった」と回答し、満足度も100%と高評価であった。参加者間の横のつながりの形成や、今後の連携のきっかけづくりにつながる機会となった。</p>

【第2回】テーマ：中間支援の役割と基礎知識

事業名	NPO相談対応スキルアップ研修：設立相談対応編
目的	NPO法人の設立や初期運営に関する相談対応に必要な基礎知識の習得と事例共有を通じて、中間支援スタッフの相談対応力の向上とネットワーク強化を図る。

日 時	令和7年8月20日(水) 13:30~15:10
場 所	オンライン会議システム (Zoom ミーティング)
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8団体 (中間支援7、担当課1) ・ 計9人 ・ その他: 所轄庁1人、FNC4人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設立相談の傾向および事例の共有 ・ 難しい相談事例の共有 (公益性判断、行政施策との関係等) ・ 相談対応体制や支援手法に関する意見交換
成 果 指 標	<p>アンケート回答率: 66.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度: 研修全体 100% ・ 研修内容の理解度向上 66.7% ・ 業務・活動への活用意向 50.0%
概 要	<p>本研修は、NPO法人の設立相談に対応する中間支援スタッフを対象に、相談事例の共有と意見交換を通じて実践的な対応力の向上を図ることを目的に実施した。事前共有シートにより、再総会の要否判断や公益性の見極めなど、対応が難しい事例が寄せられ、実際の相談現場に即した議論が行われた。</p> <p>アンケートでは満足度は100%と高評価であった一方、理解度や活用意向にはばらつきが見られた。参加者の経験年数や担当範囲の違いが影響したものと考えられる。</p> <p>今後は、基礎知識の整理とあわせて、ケーススタディや段階別研修を取り入れるなど、参加者のレベルに応じた内容設計が求められる。</p>

【第3回】テーマ: 中間支援の役割と基礎知識

事 業 名	NPO相談対応スキルアップ研修: 運営・解散相談対応編
目 的	NPO法人の運営および解散に関する相談対応について、事例共有と意見交換を通じて対応の引き出しを増やし、中間支援スタッフの実践力向上を図る。
日 時	令和7年9月18日(木) 13:30~15:00
場 所	オンライン会議システム (Zoom ミーティング)
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6団体 (中間支援5、担当課1) ・ 計6人 ・ その他: 所轄庁1人、FNC4人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営・解散相談に関する事例共有 ・ 解散手続きや留意点に関する情報提供 ・ 事業承継や後継者不足への対応に関する意見交換
成 果 指 標	アンケート回答率: 83.3%

	<ul style="list-style-type: none"> 参加者満足度：研修全体 100% 研修内容の理解度向上 100% 業務・活動への活用意向 100%
概要	<p>本研修は、NPO法人の運営・解散に関する相談対応力の向上を目的に実施した。参加者からは、法人の高齢化や後継者不足に伴い、設立よりも解散に関する相談が増加している現状が共有された。FNCからは、解散手続きの流れや実務上の留意点について、令和6年度相談事例集を活用した情報提供を行い、意見交換では過料対応や登記手続き、残余財産の扱いなど、具体的な課題について議論が行われた。</p> <p>アンケートでは、理解度・活用意向ともに100%と高い評価が得られ、実務に直結する学びの機会となった。</p> <p>今後は、事業承継支援やケース検討を取り入れた研修など、より実践的な内容への発展が期待される。</p>

【第4回】テーマ：中間支援の役割と基礎知識

事業名	県内NPOセンター等とのICT力強化交流会
目的	県内の市民活動センターにおけるICT活用やデジタル化の取組状況と課題を共有し、業務効率化や支援力向上に向けた実践的なヒントを得るとともに、スタッフ間の連携強化を図る。
日時	令和7年11月7日（金）13:30～15:10（100分） ※終了後、希望者による自由意見交換（15:10～15:30）
場所	オンライン会議システム（Zoom ミーティング）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 8団体（中間支援7、所轄庁1） 計12人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 各センターのICT活用状況の共有 業務効率化・情報管理に関する事例共有 生成AIやデジタルツールの活用に関する意見交換
成果指標	<p>アンケート回答率：85.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者満足度：研修全体 100% 研修内容の理解度向上 100% 業務・活動への活用意向 83.3%
概要	<p>本交流会は、県内中間支援センターにおけるICT活用やデジタル化の現状と課題を共有し、業務改善や支援力向上につなげることを目的として実施した。</p> <p>各センターからは、業務管理ツールやクラウドサービスの活用、生成AIやデザインツールの導入事例などが紹介され、実務に即した具体的な情報交換が行われた。</p>

	<p>アンケートでは、参加者全員が理解度向上を実感し、業務への活用意向も高い結果となった。他センターの取組を知ることで、自センターの業務改善を検討する契機となるとともに、横の連携強化にもつながった。今後は、テーマを絞った継続的な交流や、生成A I等の実践的研修の機会を設けることが有効である。</p>
--	--

総括（成果と課題）

市民活動センター等を対象とした研修や交流事業の実施回数：4回／4回

本事業では、設立・運営・解散相談対応やICT活用をテーマに研修を実施し、事例共有や意見交換を通じて実務に即した学びの機会を提供した。各回とも参加者同士の経験や知見を持ち寄ることで、日常業務に直結する実践的な理解が深まった。

フォローアップアンケートからは、他センターの対応事例を参考にした相談対応や判断の幅の広がりが見られ、研修内容が実務に活用されている様子がうかがえた。また、センター間の情報交換や相談が生まれるなど、連携の深化にもつながっている。

一方で、参加者数が少人数にとどまる回や、経験年数の差による理解度・活用意向のばらつきも見られた。今後は、研修テーマやレベルの明確化、段階的な学びの機会の提供に加え、実践的な研修や継続的な交流の場の充実を図る必要がある。

本事業を通じて、中間支援スタッフの相談対応力の向上とセンター間の関係性を深め、県内の中間支援機能の強化に寄与することができた。

添付資料

添付5：中間支援人材の支援

7 NPOと企業等とのマッチング支援

- ・目的：企業とNPOとのマッチング交流会を開催する。単なるマッチング数の増加ではなく、関心のある企業とじっくり向き合い、企業のニーズを探りながら、丁寧な対応とコミュニケーションを重ねることで、NPOとの連携を確実に進める。交流会後は、連携の実現に向けた伴走支援を実施する。
- ・実施内容：NPOと企業等との交流会の実施 1回実施

事業名	企業とNPOとのマッチング交流会 「しずおかをまぜる！企業×NPOの協創の可能性」
日時	令和7年11月19日（水）18:30～20:00
場所	対面 ふじのくにNPO活動支援センター
講師	ファシリテーター：NPO法人NPOサプライズ 飯倉清太氏 事例発表①：静岡鉄道（株） 人事部 清水寛人氏 事例発表②：NPO法人NPOサプライズ 飯倉清太氏
参加者	31人（属性：NPO15、企業15、個人1） ※その他：FNC 1人
目的	単なるマッチング数の増加ではなく、関心のある企業と向き合い、企業のニーズを探りながら、丁寧な対応とコミュニケーションを重ねることで、NPOとの連携を確実に進める。交流会後は、連携の実現に向けた伴走支援を実施する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表① 静岡鉄道人事部 清水寛人氏 ・事例発表② NPOサプライズ 飯倉清太氏 ・参加者1分自己紹介 ・交流会、意見交換
アンケート結果	アンケート回答率：51.6% <ul style="list-style-type: none"> ・参加者満足度：93% ・新たなつながりが生まれた方：93%
概要	<p>企業の方の参加が多く、はじめてセンターにいらした方も多かったため、今後のつながりに期待ができる内容となった。事例発表では企業・NPOそれぞれの立場から協創の事例と今後の可能性のお話があり、とてもわかりやすく参考になった。終了後も30分以上みなさん交流され、名刺交換やお話しをしていた。</p> <p>参加者からは、講師の話が分かりやすく、多くの団体・企業とつながれた点が高く評価された。一方で、交流やワークの時間が不足していたとの指摘が多かった。今後は、事前情報の共有や交流時間の拡充を求める声があり、定期開催への期待も寄せられた。</p>

総括（成果と課題）

NPOと企業等との交流会の実施回数： 1回／1回

本交流会は、企業とNPO双方からバランスよく参加があり(31名)、参加者満足度93%、新たなつながりの創出93%と、高い成果が得られた。特に、これまでセンターと接点のなかった企業の参加も多く、新規層へのアプローチおよび今後の関係構築の起点として有効な機会となった。

事例発表では、企業・NPOそれぞれの立場から協創の具体例やポイントが示され、参加者からも「分かりやすく参考になった」との評価が多く、協創に対する理解促進に寄与した。また、交流の場では名刺交換や具体的な連携の可能性に関する対話も生まれ、一部では今後の協働に向けた動きも見られた。

一方で、参加者数に対して交流時間が不足していたとの意見が多く、より深い対話や関係構築には時間設計に課題が残った。また、「事前に参加者のニーズや関心分野が分かる仕組み」「団体・企業の情報を整理した資料（例：1団体A4シート）」など、マッチングの精度を高めるための工夫を求める声もあった。さらに、大企業の参加が限定的であった点や、地域・規模による参加のハードルも課題として挙げられる。

本交流会をきっかけに、参加した一般社団法人日本カーシェアリング協会と県内企業等との連携に向けた動きが見られた。寄付車両を活用した社会貢献活動への参画や、企業からの紹介による越境研修の受入れなど、企業との新たな連携が生まれ、車両の寄付を通じた支援の広がりにつながっている。

今後は、交流・対話の時間配分の見直しに加え、事前の情報共有や目的別のグルーピング等により、より実効性の高いマッチングの場づくりを行う必要がある。また、交流会後のフォローアップや伴走支援を強化し、単発の出会いにとどまらず、具体的な協創の実現につなげていくことが求められる。あわせて、定期的な開催や多様な参加層の拡大により、持続的なネットワーク形成を図っていく。

添付資料

添付6：NPOと企業等とのマッチング支援

8 自治会等の地域コミュニティとNPOとの連携・協働事業の支援

・目的：多様な人材が地域の活動に参画し、自治会等の地域コミュニティとNPOが支え合う地域の仕組みづくりを支援することにより、多様化する社会課題に対応し、誰もが暮らしやすい地域づくりを目指す。

・実施結果

(1) NPOとの連携・協働に期待する地域コミュニティのニーズ把握

目的：ふじのくにNPO活動支援センターが、自治体等地域コミュニティとNPOとの連携事業を推進するにあたり、まちづくり協議会現場の現状、課題等を把握し連携の可能性を探る。

対象：総数合計 69 まちづくり協議会、コミュニティ協議会

- 1) 掛川市 (32 まちづくり協議会 掛川市協働推進係)
- 2) 富士市 (26 まちづくり協議会 富士市まちづくり課)
- 3) 菊川市 (11 コミュニティ協議会 菊川市地域支援課)

方法：まちづくり協議会ごとにオンラインアンケート調査を実施する。

各市のNPO担当課を通じてまちづくり協議会に調査を依頼する。

調査結果：50代から70代の回答者が95.5%を占めた。特に70代の占める割合は約60%であった。

回答者の88.6%が男性であった。女性の会長は、回答者の中で一人だった。

ジェンダーバランスには大きな偏りがみられる。

課題は、「役員の担い手不足」「高齢化」「交代役員が見つからず長期就任」「住民意識の低下」「小学校閉校による拠点喪失」「行政にやらされている感」

NPOとの連携実績は34.1%。未連携の理由には「チャンスがなかった」「NPOが分からない・信用できない」「信頼できるNPOがあれば連携したい」「支援を希望する」

考察：まちづくり協議会は、既存の地縁組織とは一線を画し、より自由度が高い組織であると考えていたが、実際は既存組織の体質をそのまま継承しているケースが多い。また、行政からやらされている感を強く感じている場合も多く、新しいことに否定的な姿勢を示す協議会も目立った。一方、NPOと連携を積極的に希望する地域もみられ、NPOに対する姿勢には、地域や担当者による温度差が大きい。「温度差への丁寧な対応」「伴走型の連携支援」「成功事例の可視化」が、不安や不信を払拭するカギになると考えられる。NPOと地域コミュニティの間を取り持つ適切な伴走支援があれば、連携の実現可能性はかなり高くなるといえる。

(2) 地域コミュニティとNPOとのマッチング

①情報提供

市町の市民活動センター等の協力を得ながら新たに60のNPOについて、提案できる講座・イベント・企画等の情報をヒヤリングし、その内容を集約したものを県ホームページ「ふじのくにNPO」に掲載した。

②マッチング

3事業 ※ (3) 地域コミュニティとNPOの連携・協働事業への伴走支援 参照

③県パイロット事業への応募支援

2事業 ※ (3) 地域コミュニティとNPOの連携・協働事業への伴走支援 参照

(3) 地域コミュニティとNPOの連携・協働事業への伴走支援

No	事業名	NPO等	地域コミュニティ	支援内容
1	門池の自然を子ども達と学ぶ、自然観察会の開催と調査	NPO法人樹木いきいきプロジェクト (富士市)	門池まちづくり協議会	【パイロット事業】 申請書作成支援 1/18 イベント参加、挨拶
2	こども里山学校～アート思考で地域に関わる～	NPO法人クロスメディアしまだ (島田市)	島田市川根町「抜里エコポリス」及び「抜里町内会」	【パイロット事業】 申請書作成支援 集約用のチラシをFNC配架、SNS等での情報発信協力
3	令和7年台風15号 細江ボランティアセンター運営	NPO法人御前崎災害支援ネットワーク (御前崎市)	牧之原市細江地区(地区センター)	財源確保等課題に対し、ふじのくに未来財団の災害支援基金につなげ、活動が円滑に進むよう支援
4	みんなでつくる竹スタードームと竹アートのひろば～放置竹林から生まれる共生のかたち～	社会福祉法人清水あすなろ福祉会 とももの家 (静岡市清水区)	静岡市清水区船越パークカフェプロジェクト(船越公園)	静岡県合理的配慮理解促進事業 ふじのくに未来財団後援 イベント広報、情報発信
5	節分	一般社団法人ファンファーレ (静岡市駿河区)	静岡市清水区桜橋町子ども会(主催は自治会、子ども会共催)	マッチング、企画支援、連絡調整(オープンチャットをツールとして活用)

(4) 成果報告会

事業名	地域コミュニティとNPOの連携・協働事業成果報告・交流会
日時	令和8年3月19日(木) 13:30~15:00
場所	Zoomによるオンライン開催
発表等	ふじのくにNPO活動支援センター
参加者	一般参加者18名 FNC4名 静岡県担当課1名
目的	NPO等と地域コミュニティとの連携事業に関して、各事例関係者による成果、反省点、課題等についての報告・意見交換会を開催し、今後の横展開に活かす。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ふじのくにNPO活動支援センター事業趣旨、実施内容説明 2. 静岡県パイロット事業報告会 3. その他、NPOと地域コミュニティの連携事例紹介 4. 参加者全員による意見交換
概要と参加者意見	<p><u>連携・協働事業の成功の秘訣とのきっかけづくりについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ側の予算は年度初めに取る必要がある。NPO側からの明確な予算や説明できる事業内容が必要であり、自治会を担当する行政窓口との連携も必要になる。 ・NPOが地域コミュニティメンバーとして、日頃から地域住民として信頼関係を構築する必要がある。地域コミュニティはNPOの専門性を認識していないので、NPO側は自分たちの活動を説明、アピールする必要がある。 ・信頼関係があつてこそ双方の課題や希望を語ることができ、その解決策や企画について話題が及び事業実施に結びつく。 ・地域コミュニティの強み、NPOの専門性、お互いの強みを尊重しあう。お互いの強みを活かし役割分担することで事業を成功させた。 <p><u>情報発信</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティは自分たちの課題を発信し続けることで、それに対して解決しようという団体が現れる。 ・NPOと地域コミュニティの成功事例を積極的に情報発信することで、連携がさらに生まれる可能性がある。地域同士の口コミや横連携はすでに存在しているため、成功事例の情報は横に広がりやすい。 <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティとNPOだけの関係性だけでなく、多様な組織との連携・協働を進めていくことが必要である。 <p><u>まとめ</u></p> <p>地域コミュニティとNPOとの連携・協働の必要性は誰もが認めつ</p>

	<p>つ、その仕組みづくりにどこも苦慮している。地域内での連携はすでに行われている事例は多いものの、地域や行政区を超えたマッチングは少ない。地域コミュニティとNPOが交流できる場の設定、県内の中間支援組織が連携してのマッチング・支援の仕組みづくり、地域コミュニティへの情報発信等の課題解決が必要である。</p>
--	---

総括（成果と課題）

地域コミュニティ向けにNPOが提案できる講座等の情報発信の件数：60件／60件

地域コミュニティとNPOの連携・協働パイロット事業の支援件数 5件／5件

成果報告会の開催 1回／1回

地域コミュニティ向けにNPOが提案できる講座等の情報発信については、今年度60件、前年分30団体を含め計90団体分をふじのくにNPOに掲載したが、地域コミュニティの方が見るホームページではないこと、またセンターと地域コミュニティとの接点が乏しいことから、この情報発信ツールを介してのマッチングには至らなかった。必要な情報が必要な人に届くような情報発信になるよう見直しが必要である。

添付資料

添付7：自治会等の地域コミュニティとNPOとの連携・協働事業の支援

9 NPO、社会貢献活動等に関する情報発信

- ・目的：県内外のNPO、社会貢献活動等に関する情報を収集・整理し、県ホームページ「ふじのくにNPO」、SNS等を活用して情報発信を行う。
- ・実施内容：NPOに関心のある県民や県内NPO関係者等が、無料又は低廉な料金で参加できるイベント・研修等について、市民活動センター等から情報収集した上で、県ホームページ「ふじのくにNPO」のお知らせコーナーに掲載する（月1回以上）。
 県内NPOが活用できる助成金・公募の情報を収集し、県ホームページ「ふじのくにNPO」の助成金・公募情報データベースを更新する（月1回以上）。
 その他、県内NPO関係者等にとって参考になる情報を、県ホームページ「ふじのくにNPO」、SNS等により発信する（随時）。
- ・実施結果：①年間情報発信数
 令和7年度：552件（令和6年度：355件）
 ②X（旧Twitter）「ふじのくにNPO活動支援センター」のフォロワー数
 令和7年度末：2,440（令和6年度末：2,498）
 ③Facebook「ふじのくにNPO活動支援センター」のフォロワー数
 令和7年度末：1,004（令和7年9月末：981）

総括（成果と課題）

「ふじのくにNPO」やSNS等での情報発信数：年間552件／年間360件

県ホームページ「ふじのくにNPO」に加え、複数のSNSツール（Facebook、X（旧Twitter）、Instagram、LINE）を活用し、迅速かつ広範な情報発信を行った。県内のイベントや助成金情報を継続的に収集・発信した結果、年間の情報発信数は552件となり、目標値（360件）を大きく上回った。また、令和7年台風第15号による被害（竜巻・水害）に関連し、県内NPOによる支援活動や寄付・ボランティア情報等を収集し、SNS等を通じてタイムリーに発信した。これらの情報発信により、県内のNPO関係者や県民に対して多様な情報を迅速に届けることができ、NPO活動への関心喚起や参加機会の提供につながった。Facebookについては令和7年9月からフォロワー数の把握を開始し、981件から1,004件へと増加した。一方で、X（旧Twitter）のフォロワー数は微減となるなど、プラットフォームごとの特性や利用動向の変化への対応が課題として挙げられる。

今後は、各プラットフォームの特性を踏まえた発信内容や手法の工夫を行うとともに、県内NPOや関係機関との連携を一層強化し、情報収集力の向上と効果的な発信につなげていく必要がある。

添付資料

添付8：NPO、社会貢献活動等に関する情報発信

10 その他の業務

(1) 連絡調整業務

- 1) 月例会議（再掲：※2 NPOや中間支援組織と県との間のコーディネート(1)）
 - ・ 目的：センターの業務連携や課題の共有
 - ・ 出席者：ふじのくにNPO活動支援センター、ふじのくに東部NPO活動支援センター、静岡県 県民生活課 企画班
 - ・ 内容：センター運営上の課題や業務連携について連絡・調整を行う。
 - ・ 場所：ふじのくにNPO活動支援センター、県庁
 - ・ 実施結果：11回開催

(2) その他、協働の推進、NPOの自立や活動の拡大のために必要な業務

- 1) 令和7年度静岡県パートナーシップ委員会 出席、オンライン会議開催支援
 - 令和7年7月31日（木） ふじのくにNPO活動支援センター
 - 令和8年2月12日（木） ふじのくにNPO活動支援センター
- 2) 令和7年度市町市民活動担当課長会議 出席、講話（NPO法人の基礎知識、FNCへの相談事例）
 - 令和7年5月23日（金） ふじのくにNPO活動支援センター及びオンライン会議システム

(3) 施設管理業務

- 1) 受付、電話応対等
 - 感染予防対策の消毒ジェル等の設置、ドアノブ・机の消毒を都度実施した。
- 2) ふじのくにNPO活動支援センター、ふじのくに東部NPO活動支援センターの施設管理
 - ・ 開館日数 令和7年度 FNC 241日、東部FNC 224日
※令和6年度 FNC 243日、東部FNC 226日
 - ・ 来館延べ人数 令和7年度 906団体（FNC 834団体、東部FNC 72団体）
2,445人（FNC 2,358人、東部FNC 87人）
※令和6年度：896団体（FNC 796団体、東部FNC 100団体）
2,309人（FNC 2,192人、東部FNC 117人）

添付資料

添付9：その他の業務

添付資料

添付1：相談対応

NPO相談集計

- ・相談者属性、相談内容（重複あり）、相談者所在地
- ・相談者属性別所在地内訳
- ・相談曜日時間帯別累計
- ・相談者属性別相談内容内訳（重複回答あり）

添付2：NPO法に基づく認定及び特例認定の取得を目指すNPO法人の支援

- ・全体管理表

添付3：相談事例の集約及び相談事例集の作成

- ・令和7年度相談事例集

添付4：NPO向け講座等の開催

- ・NPO向け講座（全4回）：事業報告書、参加者名簿

添付5：中間支援人材の育成

- ・中間支援スタッフ研修（全4回）：事業報告書、参加者名簿

添付6：NPOと企業等とのマッチング支援

- ・マッチング交流会：事業報告書、参加者名簿

添付7：自治会等の地域コミュニティとNPOとの連携・協働事業の支援

- ・「自治会等の地域コミュニティ向けにNPOが提案できる講座・イベント・企画等」：新規掲載NPOリスト（60団体）
- ・成果報告会：事業報告書、参加者名簿

添付8：NPO、社会貢献活動等に関する情報発信

- ・令和7年度月別情報発信実績集計表

添付9：その他の業務

- ・令和7年度来所者集計表

別添

令和7年度
ふじのくにNPO活動支援センター運営業務（その2）
実施報告書

令和8年4月

公益財団法人 ふじのくに未来財団

目 次

I	業務の目的、実施拠点、取組方針・目標等	1
1	業務の目的	1
2	業務の実施拠点	1
3	業務の取組方針・目標等	1
II	業務の実施報告	2
1	若者・移住者のNPO参画支援	2
3	NPOの広域ネットワーク化支援	9
4	NPOに関わる女性リーダー等の広域ネットワーク化支援	19
5	NPO向け講座等の開催	21
6	中間支援人材の育成	27
7	NPOと企業等とのマッチング支援	32
8	若者・移住者・女性のNPO参画支援の横展開	34
	添付資料	37

I 業務の目的、実施拠点、取組方針・目標等

1 業務の目的

ふじのくにNPO活動支援センターの運営を通じ、NPOに関する相談対応、NPOに関わる人材の育成、市町の市民活動センター未設置地域におけるNPO活動の支援、NPO活動に関する情報の収集・発信等を行うことにより、NPO活動を活性化する。

2 業務の実施拠点

- ・ ふじのくにNPO活動支援センター（略称：FNC）
静岡市駿河区南町 14-1 水の森ビル2階
- ・ 東部駐在所：ふじのくに東部NPO活動支援センター（略称：東部FNC）
沼津市大手町 1丁目 1-3 沼津産業ビル2階（静岡県東部県民生活センター内）

3 業務の取組方針・目標等

県内の非営利組織、企業、地域コミュニティなど、多様な主体の連携を促進し、社会課題の解決を支援するため、以下の3つを重点目標とし、市町の市民活動センターと共有しながら県内の中間支援機能を強化し持続可能なNPO活動の支援を目指す。

1) 協働の「コーディネート力」の強化

多様な主体による協働が円滑に連携できるよう、適切なマッチング力や効果的なコーディネート力を目指す。各主体の特性やニーズを十分把握し、パートナーとのコミュニケーション支援力を習得する。

2) 「協働」から「共創」

多様な主体による協働を推進するために、新しい価値や解決策を生み出す「共創」の視点を重視する。そのため、「共創」の考え方や手法を学ぶ機会を提供する。

3) 基盤整備の強化

NPOや中間支援組織の社会的信頼度を向上させるとともに、組織・事業運営の持続可能性を高めるための支援を強化する。コンサルティングの充実、ICTの活用推進、中間支援組織の相談対応力の向上、人材育成プログラムの拡充を進める。

II 業務の実施報告

1 若者・移住者のNPO参画支援

- ・目的：若者・移住者を対象に、社会貢献活動の機会を提供するとともに、その活動継続を支援する。特にNPOに参画する女性の定着促進に向けた支援を行う。
- ・対象：県内の若者・移住者
- ・実施結果：

1) 既存のNPO活動への参加支援

事業名	NPO地域貢献活動体験プロジェクト
期間	令和7年5月～令和8年1月
目的	若者・移住者の市民参加の拡大
参加者	22名（応募者51名）
紹介先	47団体（応募者1人当たり平均2.8団体紹介）
内容	FNCのホームページ、SNSやボランティア情報サイト「activo」へ掲載、大学の掲示版等を通じて本プロジェクトを案内し応募を受け付け。応募者には原則対面にて本人の関心や希望の活動分野、活動可能な地域や日程等をヒヤリングし、要望に沿うように受入可能なNPOを紹介しマッチングを実施した。マッチング後、実際に本人がNPOでの活動に体験参加する。

2) 自発的NPO活動開始支援

事業名	想いをカタチに起動ワークショップ
日時	令和7年9月6日（土）13:00～16:00
会場	ふじのくにNPO活動支援センター
参加者	4名 FNCスタッフ2名
目的	社会貢献活動の立ち上げ、継続を支援する
講師	阪口 瀬理奈 氏（ふじのくにICT人財育成プロデューサー）
内容	このワークショップでは、自分の中にある漠然とした想いやアイデアを、他の参加者と一緒に整理し、簡単な行動計画にまとめたり情報発信の準備をおこなう。「考える」から「動き出す」への小さな一歩を、ぜひここから踏み出す。 ①自分の「やりたいこと」と「好きなこと」を言葉にしてみよう ②想いを深めるワークで、自分の軸を発見！ ③アイデアを行動計画にまとめたり、情報発信の準備をする時間 ④みんなで共有&フィードバック
概要	参加者一人が感染症で欠席になったため、4名の参加となった。新た

	<p>に社会貢献事業に取り組むというよりは、すでに活動を行っている中で、新しい事業を立ち上げたいが思いがまとまらないという参加者がほとんどだった。</p> <p>講師は静岡市への移住7年目でありゼロから様々な活動をスタートさせてきた。(https://note.com/celina0523/n/n51551f9fa827) 移住者としての感想や、活動のきっかけ、NPOとの接点、企画の進め方等、実体験からの話は興味深く、漠然とした「思い」の具体化に大変参考になった。現在実施中の社会貢献活動としては、以下のものが紹介された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューノーマルシズオカ https://sites.google.com/view/new-shizuoka/home/backnumber?authuser=0 ・流域セミナー https://www.instagram.com/p/DNf0Kw7P8HW/ ・パブリックコメントに関する勉強会開催 <p>漠然とした「思い」を文章化、可視化し、他者に話し意見交換を行うことで、事業計画がより具体化できた。時系列の計画を立てることで、事業の現実味がより増していった。今後、定期的に進捗確認をする予定である。</p>
--	---

3) プロジェクト経験者等がアドバイザーとなって新たにプロジェクトに取り組む若者等をサポートする仕組みづくり

ワークショップ参加者、プロジェクト経験者、アドバイザー等による LINE のオープンチャットグループを作成し、意見交換や情報提供を行った。加えてセンターからの研修や交流会等の情報発信を行い、参加を促した。

総括（成果と課題）

若者・移住者のNPO参画支援とNPOにおける女性リーダー等の活躍支援を合わせて、若者等の主体的プロジェクトの支援数と若者等とNPOとのマッチングの支援数の合計 : 22件/20件

NPO地域貢献活動体験プロジェクトでは応募者の希望等に寄り添い、体験先NPOを紹介するなどしたことで、1人で複数のNPOで活動をしたり、同じNPOで複数回活動をするなど、NPOを理解し参画のきっかけをもたらすことができた。半面運営面ではオーダーメイド型のコーディネートによる手間が大きいことや、ボランティア体験を受入れる紹介先NPOが限られることなど、改善すべき課題が見つかった。

添付資料

添付1：若者・移住者のNPO参画支援

2 NPOにおける女性リーダー等の活躍支援

目的：静岡県のNPOにおける女性リーダー等の活躍に資する講座を6回開催する。

実施結果：

【第1回】聴く力と話す力

日 時	令和7年7月24日(木) 13:30~15:30
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター(対面参加のみ)
講 師	小田切 克子 氏(社会保険労務士、キャリアコンサルタント)
参 加 者	参加者4名 傍聴者1名 県担当課1名 FNC3名
目 的	リーダーとして必要な「聴く力」と「話す力」を学ぶ
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講師自己紹介 2. グループワーク(アイスブレイク) 3. ペアワーク 4. 傾聴の技法と傾聴練習の手順説明 5. 傾聴練習、振り返り 6. 言語化力を鍛えるトレーニング 7. グループディスカッション 8. 全体振り返り 9. アンケート
概 要	<p>病欠等による欠席者が目立った。また今年度は6講座のうち5講座は対面実施であるため遠方からの参加申し込みが少ない状況にある。そんな中で、昨年度磐田市で開催した「社会貢献を形にするワークショップ」に参加した男性(浜松市)の申し込みがあった。リーダーとしてコミュニケーション力を高めたいという動機であった。上司からの紹介、好奇心からというように参加動機は様々であり、参加人数も少数であったが、参加して得られたものは大きかったという感想が目立った。</p> <p>「聴く力」と「話す力」、すなわち「傾聴」と「言語化」は訓練により向上するものであり、日々のトレーニング方法も提供され、各参加者の実践につながる事が期待できた。このような「力」は、大人になってからではなく、本来は若年世代のうちにトレーニング法等を習慣づけて習得することが必要である。</p>

【第2回】組織のデザイン

日 時	令和7年8月19日(火) 13:30~15:30
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター(対面参加のみ)
講 師	呉 哲煥 氏(NPO法人CRファクトリー 代表理事)

参加者	参加者6名 傍聴者1名 県担当課1名 FNC3名
目的	リーダーとして必要な「聴く力」と「話す力」を学ぶ
内容	<p>1. 講師自己紹介</p> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会問題と解決策 ・組織のビジョンとミッション ・強くあたたかい組織・コミュニティをつくる3つの要素 理念共感、自己有用感、居心地の良さ ・よい組織をつくるための3つのポイント 理念・ビジョンを共有する、役割と出番をコーディネートする、 愛着と関係性を育む
概要	<p>とかく日常業務に追われがちなNPOにとって、定期的な組織のメンテナンスが業務の効率や成果を上げるために重要であることを再確認できた。非営利組織ならではの組織のメンテナンスとは、「理念・ビジョンの共感」「役割と出番の設計」「愛着と関係性の構築」である。この確認作業を事業計画に組み込み、ルーティーン化させることが重要であり、組織の健全性を保つことにつながる。</p> <p>研修では講義とグループワークを繰り返しながら進められた。お互いの意見や考えをつたえるというコミュニケーションの重要性も体験でき、参加者の満足度も高かった。</p> <p>非営利組織は理念とビジョンの共有が大切であることは理解できているはずだが、その確認作業がなかなかできていないことが多い。その作業を日常化する具体的な手法も学ぶことができた。</p>

【第3回】想いを事業化するための手段（プランニング）

日時	令和7年9月17日（水）13:30～15:30
場所	ふじのくにNPO活動支援センター（対面参加のみ）
講師	橋本 貢 氏（しずおか経営サポート 代表）
参加者	参加者5名 傍聴者1名 県担当課1名 FNC3名
目的	想いを可視化する力を習得する
内容	<p>1. 講師自己紹介</p> <p>2. プランニングの基礎知識</p> <p>3. ケーススタディ（ペルソナ 山本美咲さんの場合）</p> <p>4. ワーク</p> <p>5. お互いのプランを聴きあう</p> <p>6. ギャラリーウォーク</p> <p>7. アンケート</p>

概 要	<p>講師は経営コンサルタントとして企業や非営利組織を顧客に持つ。講師も自らNPO法人を立ち上げた経験から、民間企業とNPO法人における、ミッション、事業計画、運営、資金調達についての類似点や相違点をわかりやすく説明していただいた。また、AIを活用して作られたペルソナ「山本美咲さん」をケーススタディとして提示し、大変わかりやすい事例として、各参加者が「想い」をプランニングする大きな手助けとなった。AIの活用法についても参考になった。さらに、「ファンドレイジング」という単語になじみのない参加者がほとんどだったことから、次回10月17日の「資金繰り」につなげるファンドレイジングの基礎知識も役にたった。</p> <p>ワークの最後に「想い」をA4シートにまとめ、言語化し他者に伝えた。参加者全員でシートを評価しあいコメントを交換した。第3者からの評価は新たな発見や自分の考えについて再認識できるいい機会となった。</p>
-----	---

【第4回】資金繰りについての勉強会

日 時	令和7年10月17日(水) 13:30~15:30
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター(対面参加のみ)
講 師	河原崎 紗綾香 氏(SKC 代表、中小企業診断士)
参 加 者	参加者7名 傍聴者1名 県担当課1名 FNC3名
目 的	お金の数値計画をつくるための知識を学ぶ
内 容	<p>1. 講義</p> <p>1) 資金計画表について</p> <p>2) 必要資金と調達(借りる、貯める、もらう・あつめる)</p> <p>2. グループワーク(興味ある活動分野ごとに分かれる)</p> <p>NPOのためのイベント資金調達ゲーム</p> <p>1) イベント内容、収入、必要予算・収支計画、広報内容、寄付者へのリターン</p> <p>2) グループごとに寄付を募るためのプレゼンテーション</p> <p>3) 寄付先決定</p> <p>3. NPOにはターゲットが複数存在</p> <p>1) 誰を幸せにしたいのか?…事業での対象</p> <p>2) 誰にお金を出してもらえるか?…支援者の確保</p> <p>4. 事業継続に大事な利益の確保</p>
概 要	参加者の興味ある分野ごとに分かれたグループによる実践的なワークを通じて、資金繰りについて学んだ。事業企画から資金計画表の作成、資金調達のための広報、プレゼンテーションまでのメニューをこ

	<p>なした。NPOならではの寄付という資金調達手段、持続可能性を担保するために事業計画の必要性について十分実感できた。実際の寄付行為と、寄付に至る理由を考えることで、寄付する側の心理も理解できる機会にもなり、NPOならではの支援者獲得に役立つといえる。</p> <p>また、企画の中には社会課題解決につながる興味深い事業も提案された。すでにNPOで活動している参加者もあり、事業の実現化も期待できる。</p>
--	---

【第5回】有意義なミーティングの開き方

日 時	令和7年11月12日(水) 13:30~15:30
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター(対面参加のみ)
講 師	鈴木 まり子 氏(NPO法人日本ファシリテーション協会フェロー)
参 加 者	参加者5名 傍聴者1名 県担当課1名 FNC3名
目 的	<p>有意義なミーティングの開き方</p> <p>「ファシリテーション」を学んで、さっそく自分の現場で活用しようと思う。</p>
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. チェックイン 3. ファシリテーションとは <ul style="list-style-type: none"> ・3つのコツ ①目的とゴールを明確に使用 ②目標に向かって流れをつくろう ③場づくりを考えよう 4. 普段の話し合いを振り返る 5. ファシリテーションのスキルとマインドの解説 6. チェックアウト
概 要	<p>フラットな組織であるNPOにおける合意形成の場は会議である。何気なく開催している日々の打合せや会議の中で、不満や疑問を感じながらもいい改善策が見当たらない人が多い。ファシリテーションのあるべきカタチ、具体的な会議の進め方、困った時の対策方法等順序だてて学ぶことができた。具体的な言葉の使い方、会議の可視化、課題に対する対応方法等、「なるほど」と思う点が多かった。日々の打ち合わせにおいても、学んだ点を意識してファシリテーションを行うことにより、よりよい会議を開くことができるようになるという前向きな気持ちを、各参加者が持つことができた。</p>

【第6回】オンラインコミュニケーションサロン

日 時	令和7年12月10日(水) 13:30~15:30
-----	---------------------------

場 所	Zoomによるオンライン開催
講 師	佐藤 和枝 氏 (株式会社ミズ・クリエイション)
参 加 者	参加者6名 FNC2名
目 的	つながりの力を知る
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 全員自己紹介 2. 「つながる力」テーマの説明 3. グループワーク 他人との出会いがきっかけで、何かが動いたことありますか 4. 発表と気づきの話し合い 5. 「つながる力」とは 6. フリートーク
概 要	<p>NPO女性リーダー活動支援プログラム第1回～第5回までは、テーマ別にグループワークを基本とし学習してきた。実践的な手法を学ぶための一連のプログラムであったが、今回は「つながる力」について、経験からの気づきを情報共有し自由に意見交換を行った。</p> <p>現在取り組む活動や個人の背景を知ること、で、「つながり」を深めていくことができる。急増する外国人とのつながり方等、様々な場面においての「つながり」の重要性について意見交換した。</p>

総括（成果と課題）

講座の実施回数： 6回／6回

研修タイトルは「女性等」であったが、男性の参加者もあり、どの講座もNPO活動従事者にとっては有益なものであった。対面のみでの少数研修は、参加者にとっては密度の濃い研修であったといえる。マス対象の知識や情報提供の手段としてはオンラインで事足りるものであるが、ワークを交えた伴走支援型の研修は少数クラスでの対面実施が効果的であった。講師や参加者同士の関係性も深く築くことができ、研修以外での交流も生まれた。センターを中心に、参加者同士の関係性を今後も途切れさすことのないようにしていく予定である。一過性のもので終わらせるのではなく、将来的に何かが発生することを期待する。

添付資料

添付2：NPOにおける女性リーダー等の活躍支援

3 NPOの広域ネットワーク化支援

目的：NPOの広域ネットワーク化に向けて、テーマ別に交流会等、参加者同士の交流を促進する取組を実施する。このテーマは、若者・子育て世代の移住定住に資するものとする。

実施結果：令和5年度から引き続き「子育て支援」「若者」「竹林」の3テーマで取組を実施した。

<テーマ1：子育て支援>

1) 子育て支援ネットワークの交流会開催 (全3回)

【第1回】テーマ：子どものしんどさに気づく支援

事業名	子どものしんどさに気づく支援とは ～ “気づく・寄り添う・つなぐ” を現場から考える～
日時	令和7年7月23日(水) 10:00～11:40 (100分)
場所	ハイブリッド開催(対面/オンライン) ・ 対面：沼津労政会館 2階 第2会議室(沼津市高島本町1-3) ・ オンライン：Zoom ミーティング
講師	講義：小和田 尚子 氏 (NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡 共同代表理事) 事例発表：篠崎 美保 氏 (NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡 富士宮学習支援担当：富士宮市子どもの学習・生活支援事業「にじっこ」サポーター)
参加者	・ 33 団体：NPO法人5、中間支援センター4、一般社団法人3、社会福祉法人2、社会福祉協議会1、生活協同組合1、任意団体1、行政2、個人14 ・ 計47人：対面16人、オンライン20人、アーカイブ11人 ※ 静岡県 県民生活課1人、FNC4人、講師2人を含む
目的	ヤングケアラーや多子世帯、障がいきょうだいを持つ子どもなど、多様な困難を抱える子どもに対し、支援者が早期に気づき、適切な支援や関係機関との連携につなげる力の向上を図る。あわせて、実践事例の共有と参加者同士の交流を通じて、地域における支援ネットワークの形成を促進する。
内容	・ 講義「子どものしんどさに気づく支援とは」 ・ 事例発表(学習・生活支援の実践) ・ グループワーク(事例共有、支援の工夫や連携の検討) ・ 振り返り・全体共有
アンケート	アンケート回答率：52.5%

結 果	<ul style="list-style-type: none"> 参加者満足度：全体 100% 交流会容の理解度向上 100% 業務・活動への活用意向 100%
概 要	<p>「子どものしんどさに気づく支援」をテーマに、ヤングケアラーや経済的困難など多様な背景を抱える子どもへの支援について、講義と事例発表を通じて学びを深めた。講師からは「声なき声」に気づき、継続的に寄り添う支援の重要性が示され、事例発表では学習支援の現場における気づきと支援の実践が共有された。グループワークでは、参加者同士が現場での経験や課題を持ち寄り、対応の工夫や連携の可能性について意見交換を行った。分野や地域を越えた交流により、支援者同士のつながりが生まれ、ネットワーク形成の契機となった。</p> <p>アンケートでは理解度・満足度ともに高く、今後の活動への活用意向も高い結果となり、現場の実践に根ざした学びと連携の重要性が確認された。</p>

【第2回】テーマ：子どもの居場所

事業名	みんなで考える、不登校との向き合い方
日時	令和7年9月12日(金) 10:00~11:40 (100分)
場所	対面：ふじのくにNPO活動支援センター
登壇者	<p>松浦 静治 氏 (フリースクールひだまり教室/島田市)</p> <p>黒川 彩子 氏 (きみのスペースまんま/静岡市)</p> <p>村瀬 明美 氏 (不登校児の保護者、よりどころ休巢主催)</p> <p>山本 紘彰 氏 (不登校経験者、若きカフェバリスタ)</p>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 23 団体：社会福祉法人 2、中間支援団体 1、任意団体 6、行政 4、個人 10 計 26 人 <p>※ FNC 4 人、登壇者 4 人を含む</p>
目的	不登校をテーマに、保護者・支援者・当事者など多様な立場の経験や考えを共有し、「不登校=問題」と捉えない視点を学ぶ。あわせて、参加者同士の交流を通じて、地域における子どもの居場所や支援のあり方について理解を深める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> クロストーク (保護者・支援者・当事者等の登壇者による経験共有) 質疑応答 参加者同士の交流・意見交換
アンケート結果	<p>アンケート回答率：100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者満足度：全体 83.3% 交流会容の理解度向上 94.4%

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務・活動への活用意向 88.9%
概 要	<p>不登校をテーマに、保護者・支援者・当事者・制度の各立場によるクロストークを実施し、多様な視点から現状と課題を共有した。不登校を「問題」と捉えるのではなく、「子どもの生き方の一つ」として受け止める視点の重要性が示された。</p> <p>当事者の経験や保護者の葛藤、支援現場での関わり方、制度的課題などが具体的に語られ、参加者は多角的に理解を深めた。交流の中では、民間団体同士の連携や医療・地域とのつながりの必要性についても意見が交わされた。</p> <p>本交流会を通じて、子どもの意思を尊重した支援の在り方や、多様な学びの選択肢を支える地域ネットワークの重要性が再認識された。</p>

【第3回】テーマ：子どもの権利

事業名	子どもの権利から考える、こどもの声を聴く支援とは
日時	令和8年1月29日(木) 13:30~15:30 (120分)
場所	ふじのくにNPO活動支援センター
講師	白井 千晶 氏 (静岡大学教授/子どもアドボカシーセンターしずおか代表)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 14 団体 (NPO法人1、中間支援センター1、任意団体4、教育機関1、行政3、個人4) ・ 計 18 人 <p>※ 静岡県 県民生活課 1人、FNC 3人、講師 1人を含む</p>
目的	子どもの権利条約の理念やアドボカシーの視点について理解を深め、子どもの意見表明権や最善の利益を尊重した支援の在り方を学ぶ。あわせて、参加者同士の意見交換を通じて、実践に生かす視点を共有する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 (子どもの権利・アドボカシー) ・ ロールプレイ (子どもの声を聴く関わりの体験) ・ 振り返り・意見交換 ・ ネットワーク紹介
アンケート結果	<p>アンケート回答率：66.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：全体 100% ・ 交流会内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 100%
概 要	「子どもの権利」とアドボカシーをテーマに、子どもの意見表明権や最善の利益といった基本的な考え方を学び、支援の在り方を見直す機会とした。

	<p>講義では、「権利は本来子どもが持っているものである」という視点が示され、支援者の関わり方を問い直す内容となった。</p> <p>ロールプレイでは、子どもの声を尊重する関わり方を体感的に学び、参加者同士で気づきを共有した。多様な立場の参加者による意見交換を通じて、実践につながる学びと交流が生まれた。</p> <p>アンケートでは理解度・満足度・活用意向のいずれも高く、子どもの権利を基盤とした支援の重要性と、ネットワーク形成の意義が再確認された。</p>
--	--

2) 「静岡県子育て支援団体マッピング」を通じたネットワーク参加促進

県内の子育て支援団体に対してネットワーク参加を呼びかけるとともに、新規掲載の促進を図った。メールマガジンやSNS（LINE オープンチャット、Facebook グループ）等を通じて周知を行い、団体間の可視化とつながりづくりを進めた。その結果、掲載数は前年度の60箇所から75箇所へと増加し、前年度比で約25%の拡充となった。

今後は、既存参加団体からの紹介促進や地域内連携の強化を通じて、さらなる拡充を図る。

<テーマ1：子育て支援> 総括（成果と課題）

令和7年度は、「子育て支援」をテーマに、交流会（全3回）の開催および子育て支援団体マッピングの拡充を通じて、分野横断的・広域的なネットワークの形成を目指した。

交流会では、「子どものしんどさ」「不登校」「子どもの権利」といった今日的なテーマを設定し、支援者・当事者・行政・教育・福祉関係者など多様な主体が参画する場を創出した。講義や事例発表、意見交換等を通じて、参加者同士の相互理解と実践知の共有が進み、分野や地域を越えた関係性の構築を図ることができた。

また、「静岡県子育て支援団体マッピング」は、掲載数が60箇所から75箇所へと増加し、地域における多様な子育て支援団体の見える化と相互交流の基盤整備を進めることができた。あわせて、メールマガジンやSNS等を活用した情報発信により、オンライン上での緩やかなつながりの維持・強化も図った。

本事業は令和7年度をもって終了するが、これまで形成されたネットワークは、公益財団法人ふじのくに未来財団が主体となり、継続的な運営が予定されている。今後は、交流会等の対面の機会に加え、マッピングやSNS等を活用しながら、持続的なネットワークとして定着・発展していくことが期待される。中間支援組織は、活動を側面支援し、自立的なネットワーク運営を後押ししていくことが重要である。

<テーマ2：若者>

3) 「若者団体アワード」の開催

① 「しぞーかわかもの図鑑発刊記念フォーラム」の開催

昨年度刊行した「しぞーかわかもの図鑑」の発刊記念と、アワードのイベントとして記念フォーラムを開催した。アワード開催に向け、学生主体での開催の体験と、アワードの周知にもつなげた。

事業名	しぞーかわかもの図鑑発刊記念フォーラム 「どうやったら仲間が増えるかな」を語ろう
日時	令和7年9月23日(火・祝) 13:00~16:30
会場	ふじのくにNPO活動支援センター
参加者	合計27名(学生21名、NPO5名、FNC1名)
内容	第1部 登壇団体による事例紹介 第2部 パネルディスカッション 第3部 交流会
アンケート結果	アンケート回答率：66.6% 参加者満足度：全体 100%
概要	第1部では他団体の活動を知り、今後の参考となる学びが得られた。第2部では「仲間の増やし方」や「リーダーの必要性」などについて多様な意見や助言があり、理解が深まった。第3部の交流では組織運営や広報などをテーマに活発な意見交換が行われ、新たなつながりも生まれた。また、若者団体アワードの周知や次年度につながる基盤づくりが進み、学生実行委員にとっても実践的な経験の場となった。

② 「しぞーかわかものアクションアワード」の開催

事業名	第1回しぞーかわかものアクションアワード
日時	令和8年2月24日(火) 15:45~17:45
場所	コミュニティホール七間町 MIRAIE リアン
参加者	61人(属性：NPO30、企業14、個人10、行政4) ※その他：FNC 3人
目的	社会貢献活動を行う若者団体の可視化と相互交流を促進することにより、地域への愛着の醸成および若者・子育て世代の移住定住の促進に資することを目的とする。 あわせて、県内の若者団体同士が互いの活動を知り、つながりを深める広域ネットワークの形成を図るとともに、テーマ「若者団体」における自立的かつ継続的なネットワーク運営体制の構築を目指す。
内容	一次審査を通過した5団体による最終プレゼンテーションを実施。 2026年2月24日に最終プレゼンテーションおよび表彰式を実施。

	大賞・準大賞・審査員特別賞・オーディエンス賞を決定し、表彰式をおこなった。
アンケート 結 果	アンケート回答率：28.8% ・参加者満足度（10点満点中6点以上）：73.3%

③実行委員会の開催

全15回開催した。

メンバーは、大学生4名、NPO法人ESUNE、FNCで構成し、2月以降は学生が1名増員した。

アワード開催に向け打合せを実施した。

<テーマ2：若者>総括（成果と課題）

本事業では、「若者」をテーマにフォーラムおよびアワードを実施し、県内で社会貢献活動に取り組む若者団体の可視化と相互交流の促進を図った。フォーラムでは団体運営や仲間づくりに関する具体的な知見の共有と、新たなつながりの創出につながった。また、アワードでは、若者団体の活動発表を通じて相互理解が深まり、県内に多様な担い手が存在することの認識を広げる機会となった。

特に、両事業を通じて若者団体同士の横のつながりが生まれ、ネットワーク形成の基盤づくりが進んだことは大きな成果である。さらに、本事業で形成されたネットワークは、若者主体のプラットフォームである「NPO法人ESUNE」へ引き継がれることが決定しており、行政主導から若者主体へと段階的に移行する持続的な運営体制の構築（自走化）につながった点は、本事業の重要な成果といえる。

一方で、アワードにおけるアンケート回答率が28.8%にとどまったことや、交流時間の不足、評価基準の分かりやすさなどに課題が残った。また、フォーラム・アワードともに単発参加にとどまるケースも見られ、継続的な関係構築や活動支援への接続をより強化していく必要がある。

今後は、NPO法人ESUNEを中心とした若者主体のネットワーク運営を支援しつつ、定期的な交流機会の創出や情報発信の強化により、関係性の深化と参加者の拡大を図ることが求められる。また、企業や地域との接点を意図的に設計することで、若者団体の活動が社会的な広がりを持ち、移住定住の促進にも資するような仕組みづくりを進めていく必要がある。

<テーマ3：竹林>

4) しずおか竹林ネットワークの検討会議、交流会等

①検討会議（全6回）

- ・目的：今後の方向性や運営の引継ぎを協議する。
- ・実施結果：全6回開催した。自走に向けた検討を実施し、任意団体を設立し自走していくこととなった。

No.	開催日	場 所
第1回	令和7年6月23日（月）	ふじのくにNPO活動支援センター
第2回	7月18日（月）	オンライン
第3回	10月9日（木）	オンライン
第4回	11月17日（月）	オンライン
第5回	令和8年2月12日（木）	オンライン
第6回	3月19日（木）	ふじのくにNPO活動支援センター

②交流会（1回）

事業名	しずおか竹ネットワーク 交流会&フォーラム
日時	令和8年1月21日（水） 10:00～15:00
場 所	B-nest 静岡市産学交流センター 6階プレゼンテーションルーム （静岡市葵区御幸町3-21）
参加者	52名
目的	社会貢献活動を推進することによって地域への愛着を醸成し、移住定住を促進するため、NPOの広域ネットワークを構築する。今年度は中核となるNPOを中心とした主体的・継続的なネットワークが定着するように支援する。
内 容	国の制度と市町の取組み 県の制度と活用状況 パネルディスカッション&フロアディスカッション テーマ：「竹林整備を持続させる資金の流れをどうつくるか」 交流タイム
アンケート結果	参加者満足度（回答率84.8%） 全体：94.9%
所 感	補助金・助成金の制度解説や各地の事例紹介を通じて、制度理解の向上と活用への希望が感じられました。今回の交流会&フォーラムを通して、「静岡の放置竹林を宝の山に変える」という共通の思いを再確認し、つながりを持続へとつなげていく第一歩となる有意義な機会になりました。

5) しずおか竹ネットワークオンライン勉強会 (全3回)

【第1回】

事業名	第1回竹林整備、基本～応用 もう一度ちゃんと学んでみるオンライン勉強会
日時	令和7年7月30日(木) 19:00～20:00
場所	・オンライン：Zoom ミーティング ・アーカイブ：YouTube 限定公開
講師	大石 誠一 氏 ふじのくに竹王国企業組合 理事長、地域資源活用研究会 副会長、丸大株式会社 代表取締役 社長
参加者	・ オンライン参加：34人 ・ アーカイブ参加：66人
目的	地域で広がる放置竹林の課題に向き合い、竹の基礎知識から整備技術、活用法までを段階的に学び、参加者が地域での実践に一步踏み出せることを目指す。
内容	『竹・竹林・放置竹林を知る』 竹の生態、放置竹林がもたらす課題、竹林整備の必要性を学ぶ入門編
アンケート結果	アンケート回答率：36.5% ・参加者満足度：講座全体 100%
概要	竹の種類や竹齢の見分け方、地下茎と竹本体の寿命の違いなど、実践に直結する基礎知識をわかりやすく解説いただきました。参加申し込みは100名を超え、竹林整備への関心の高さを示すとともに、「しずおか竹ネットワーク」の周知にもつながる機会となりました。

【第2回】

事業名	第2回 竹林整備、基本～応用 もう一度ちゃんと学んでみるオンライン勉強会
日時	令和7年9月25日(木) 19:00～20:45
場所	・オンライン：Zoom ミーティング ・アーカイブ：YouTube 限定公開
講師	大石 誠一 氏 ふじのくに竹王国企業組合 理事長、地域資源活用研究会 副会長、丸大株式会社 代表取締役 社長
参加者	・ オンライン：16人 ・ アーカイブ：47人
目的	地域で広がる放置竹林の課題に向き合い、竹の基礎知識から整備技術、

	活用法までを段階的に学び、参加者が地域での実践に一步踏み出せることを目指す。
内 容	『竹林整備 竹林を活かすのか？竹林を絶やすのか？』 竹林整備の基本的な管理手法を学ぶ
アンケート 結 果	アンケート回答率：30.1% ・参加者満足度：講座全体 100%
概 要	前回の復習も交えながら、竹齢の見分け方や伐採方法、傾斜地での注意点、切り株処理、芯止めなど、実践に役立つ具体的な内容を学んだ。竹林整備に対する理解の“解像度”が高まるとともに、次の行動へとつながる学びの場となった。

【第3回】

事 業 名	第3回 竹林整備、基本～応用 もう一度ちゃんと学んでみるオンライン勉強会
日 時	令和7年11月13日(木) 19:00～20:45
場 所	・オンライン：Zoom ミーティング ・アーカイブ：YouTube 限定公開
講 師	大石 誠一 氏 ふじのくに竹王国企業組合 理事長、地域資源活用研究会 副会長、丸大株式会社 代表取締役 社長
参 加 者	・ オンライン：20 人 ・ アーカイブ：51 人
目 的	地域で広がる放置竹林の課題に向き合い、竹の基礎知識から整備技術、活用法までを段階的に学び、参加者が地域での実践に一步踏み出せることを目指す。
内 容	『竹林の活用 竹炭・竹チップ・竹粉・・・』 竹林整備後に発生する竹の利活用例を紹介し、地域循環の可能性を考えました。
アンケート 結 果	アンケート回答率：28.2% ・参加者満足度：講座全体 100%
概 要	竹の利活用について、昔からある様々なモノ・竹炭・竹酢液・生薬などの話しや、新たな竹の利活用として竹粉を使用した食品や家畜のエサ、バイオエタノールについて、また筏を作って水上レジャーに活用するなどの多様な利用例について詳しく説明していただいた。 実務的に学べる場が少ない現状から、継続的な勉強会や実地での学びを望む声が見られた。

【運営支援】

「しずおか竹ネットワーク」の自走に向け、ネットワークのメンバーが主体的に開催する勉強会の運営を支援した。

○竹利活用オンライン勉強会（令和8年2月17日（火）開催）

「え！竹がきのこで燃料に!?～静岡農業高校の先生による研究発表会～」参加者 32名

○竹利活用オンライン勉強会（令和8年3月13日（金）開催）

竹×土木【静岡市トライアルパーク蒲原で施工した竹チップ舗装について】参加者 16名

6) SNS、『静岡県竹に関わる団体マッピング』を通じたネットワーク参加促進

団体の活動情報や困りごと、イベント情報、そして竹に関する最新情報の交換と共有が活発に行われた。

(ア) LINE オープンチャット「しずおか竹ネットワーク」

<https://line.me/ti/g2/wIRkBy232BQ09n3wI6hhNdwGcujrXf8Za9MfWQ>

- ・メンバー数（令和8年3月末日現在）：96 ※令和7年3月末日現在：74
- ・投稿数（令和8年3月末日現在）：316 ※令和7年3月末日現在：320

(イ) Facebook グループ「しずおか竹ネットワーク」

<https://www.facebook.com/groups/shizuokatakenet>

- ・メンバー数（令和8年3月末日現在）：129 ※令和7年3月末日現在：98
- ・投稿数（令和8年3月末日現在）：243 ※令和7年3月末日現在：276

<テーマ3：竹林>総括（成果と課題）

本事業では、3年間にわたり竹林整備に関わる多様な主体のネットワーク形成と、知識・技術の共有、活動の担い手育成に取り組んできた。検討会議や交流会を通じて方向性の共有と関係性の構築を進めるとともに、オンライン勉強会や SNS を活用した継続的な学びと情報交換の機会を提供することで、参加者の理解促進と実践意欲の向上につながった。

特に、竹林整備に関する基礎から応用、利活用までを段階的に学べる機会を設けたことで、個々の活動の質の向上に加え、「仲間づくり」や「地域を越えた連携」の必要性が参加者の中で共有され、ネットワークとしての基盤強化が図られた。

これらの積み重ねの結果、本事業の最も大きな成果として、関係者による任意団体「しずおか竹ネットワーク」が設立され、自主的・継続的に活動を推進していく体制が構築された。行政主導の事業として開始した取り組みが、民間主体による自走へと移行したことは、持続可能な地域課題解決のモデルとして高く評価できる。

今後は、本事業で形成されたネットワークと蓄積された知見を基盤として、竹林整備の実践と利活用のさらなる展開、ならびに資金循環の仕組みづくりが進むことが期待される。

添付資料

添付3：NPOの広域ネットワーク化支援

4 NPOに関わる女性リーダー等の広域ネットワーク化支援

- ・目的：NPOに関わる女性リーダー等の交流会等を開催し、主体的・継続的なネットワークが定着するように支援する。
- ・対象：これからリーダー的な立場でNPO活動を始めようとする女性やNPOを立ち上げたばかりの女性リーダー等
- ・実施結果

日 時	令和7年8月25日(月) 14:00~16:30
会 場	静岡県男女共同参画センター(あざれあ) 第3会議室
参 加 者	合計45名(NPO21名 議員関係3名 企業5名 個人2名 ボランティア2名 登壇者3名 財団関係6名 担当課3名) 静岡新聞取材1名
目 的	NPOに関わる女性リーダー等のネットワーク化に取り組むとともに、女性リーダー等のサポートの仕組みづくりなどを行うことにより、女性をはじめとした多様な主体のNPO参画を促進し、もってNPO活動を活性化する。
登壇者とファシリテーター	菊田 美奈子氏(NPO法人天城の森フォレストーズ倶楽部 代表理事) 久保田 翠氏(認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 理事長) 兒玉 絵美氏(NPO法人クロスメディアしまだ 理事長) 木下 聡(公益財団法人ふじのくに未来財団)
内 容	14:00~15:05 開会 14:05~14:35 登壇者の活動紹介 14:35~15:45 登壇者による意見交換 例 テーマ1 役員のジェンダー構成→一番困ったこと→対処策 テーマ2 経験したジェンダーギャップ等 テーマ3 事業継続について テーマ4 今後の展開について 質疑応答 15:50~16:25 グループ別交流会 3つのグループに分かれて登壇者、参加者と意見交換会 16:25~16:30 クロージング
概 要	今年度は昨年度のアンケート結果に基づき、登壇者、参加者同士が意見交換ができる場を設けた。登壇者の活動紹介、意見交換後、3グループに分け、それぞれのグループ内で自由に質疑応答や意見交換ができるようにした。登壇者は個性豊かにそれぞれの分野で活動する方々であるため、「NPO」「女性リーダー」ということでなく、活動その

	<p>ものに興味をもって参加された方も多かった。活動をより深く知りたい、交流したいというグループ別の質疑応答、意見交換会は自由な雰囲気の中で進められた。またNPOの運営に関する課題、持続可能な経営、事業承継、資金調達等についても、各登壇者それぞれの経験談から興味深いヒントを得ることができた。</p> <p>いつの時代にも存在したと予想される社会的ジェンダーギャップに対し、いずれの登壇者も表立って抗うことはせず、時間をかけて社会的信頼を得たり、しなやかにジェンダーギャップをすり抜けながら活動を継続させてきた。その点が、むしろ女性ならではの処世術だったように見える。それぞれの分野で力強く、時にはしたたかに活躍する3名の登壇者から勇気や希望を得た参加者も多くいた。</p>
--	---

総括（成果と課題）

交流会等の実施回数： 1回／1回

女性リーダーへの関心というよりは、登壇者や活動に対する魅力に人が集まったといえる。活動分野が広いNPOは、活動分野や地域が異なる団体との接点が少ない。専門性が高いNPO等が何らかのテーマで集まるNPO交流会は、多様な形の協働を生む種まきの場になり得る。この3年間、センターでは3つの活動分野でのネットワーク化を進めてきた。地域のネットワークとして今後もその機能が期待できる。ネットワークの第一歩として、このような交流会は貴重な機会といえる。交流会終了後、個々の関係性を深めた団体もあるし、フェイスブックのNPO女性リーダーグループへの参加もみられた。一過性の交流会で終わるのではなくネットワーク化を進め、新たな協働の誕生や災害時における連携にも活かせるような中間支援機能がセンターに求められる。

添付資料

添付4：NPOに関わる女性リーダー等の広域ネットワーク化支援

5 NPO向け講座等の開催

- ・目的：NPOの人材不足や資金不足に対応するための講座など、NPOの運営や活動に資する講座等を、ニーズを踏まえて開催する。静岡県が国に申請する新しい地方経済・生活環境創生交付金のテーマ「若者・子育て世代の移住定住促進」に資するものとする。
- ・対象：NPO関係者等
- ・実施結果：「若者・子育て世代の移住・定住促進」に資するNPO向け講座等 6回開催
【第1回】テーマ：組織運営力・支援力の向上

事業名	地域を支えるNPOのための資金調達講座 ～基礎から学ぶファンドレイジングと助成金活用～
日時	令和7年6月27日(金) 13:30～15:10 (100分)
場所	ハイブリッド開催(対面/オンライン) ・対面：ふじのくにNPO活動支援センター ・オンライン：Zoom ミーティング
講師	木下 聡 氏(認定ファンドレイザー)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・24団体：NPO法人12、中間支援センター2、任意団体7、個人3(うち法人化を検討中2) ・計26人：対面6人、オンライン17人、アーカイブ3人 ・その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 5人
目的	NPOの持続的な活動に不可欠な資金調達力の向上を目的に、寄付・助成金・クラウドファンディング等の基礎知識とファンドレイジングの考え方を学ぶ機会とする。あわせて、地域課題解決や移住・定住促進に取り組む団体の実践力強化を図る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOにおける資金の考え方 ・寄付・助成金・クラウドファンディングの基礎 ・資金調達手法の特徴と選択 ・募集要項の読み解き方 ・事例紹介・質疑応答
アンケート結果	<p>アンケート回答率：65.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者満足度：講座全体 88.2% ・講座内容の理解度向上 94.1% ・業務・活動への活用意向 88.2%
概要	NPOの資金調達力の強化を目的として開催した。参加者の多くは会費や自己資金に依存しており、寄付や助成金の活用にはばらつきが見られたことから、基礎的な理解の底上げを重視した内容とした。講座

	<p>では、団体の Vision/Mission の整理を軸に、収入構造や各資金調達手法の特徴を解説し、助成金の募集要項の読み解き方など実務に直結するポイントを紹介した。アンケートでは理解度向上 94.1%、活用意向 88.2%と高い評価を得ており、活動の見直しにつながったとの声が寄せられた。今後は、より実践的な内容へのニーズを踏まえ、応用的な講座の実施も検討する必要がある。</p>
--	---

【第2回】テーマ：連携・協働・発信の強化

事業名	NPOのための研修受け入れ講座 ～地域の魅力を伝え、人とのつながりを生み出す受け入れの工夫～
日時	令和7年9月3日（水）13:00～15:00
場所	ハイブリッド開催（対面／オンライン） ・ 対面：ふじのくにNPO活動支援センター ・ オンライン：Zoom ミーティング
講師	山崎 宏 氏（NPO法人ホールアース自然学校 代表理事）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21 団体：NPO法人7、中間支援センター2、一般社団法人2、任意団体6、企業1（市民活動センター運営）、個人1／県内18、県外3 ・ 計22人：対面2人、オンライン16人、アーカイブ4人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 3人
目的	NPOが企業や大学等の研修・視察を受け入れる際に必要な体制やノウハウを学ぶ機会を提供する。受入れを通じた関係人口の創出や地域資源の魅力発信を促し、移住・定住促進につながる取組のきっかけとする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修受け入れ事例の紹介 ・ 受入体制、安全管理、費用設計 ・ プログラム設計とホスピタリティ ・ 地域とのつながりや関係人口創出の視点 ・ 質疑応答
アンケート結果	<p>アンケート回答率：54.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 100%
概要	NPOによる研修・視察受け入れの実践力向上を目的に開催した。講師からは、受入体制の整備や安全配慮、費用設計、プログラム設計の工夫について具体的事例を交えて解説があり、実務に即した理解が促進された。アンケートでは、満足度・理解度・活用意向いずれも100%と

	<p>高評価であり、参加者からは自団体の課題整理や新たな取組のヒントを得たとの声が寄せられた。</p> <p>研修受入れは地域の魅力発信や関係人口の創出に資する取組であり、移住・定住促進につながる実践として今後の展開が期待される。</p>
--	---

【第3回】テーマ：組織運営力・支援力の向上

事業名	地域を支えるNPOのための資金調達講座（実践編） ～基礎から学ぶファンドレイジングと助成金活用～
日時	令和7年11月20日（木）13:30～15:30（120分）
場所	ハイブリッド開催（対面／オンライン） ・ 対面：ふじのくにNPO活動支援センター ・ オンライン：Zoom ミーティング
講師	木下 聡 氏（認定ファンドレイザー）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13 団体：NPO法人 8、中間支援センター 3、任意団体 1、行政（担当課） 1 ・ 計 16 人：対面 2 人、オンライン 13 人、アーカイブ 1 人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1 人、FNC 4 人
目的	助成金申請に必要な戦略的な構成や「伝わる」文章表現を学び、NPOの資金調達力の向上を図る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎編おさらい ・ 資金調達方法の整理 ・ 助成金とクラウドファンディングの活用 ・ 申請書作成のポイント ・ 事例解説・質疑応答
アンケート結果	<p>アンケート回答率：50.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 87.5% ・ 業務・活動への活用意向 75.0%
概要	<p>助成金申請における実践的なスキル習得を目的として開催した。6月開催の基礎編の内容を踏まえつつ、資金調達手法の選択や申請書の構成、伝わる表現の工夫について具体的に解説した。参加者からは、選考基準に沿った構成の重要性や簡潔な表現の必要性を再認識したとの声が寄せられた。アンケートでは満足度 100%、理解度向上 87.5%と高い評価を得ており、実務への応用が期待される内容となった。</p> <p>NPOの自立的な運営基盤の強化に資する機会となった。</p>

【第4回】テーマ：連携・協働・発信の強化

事業名	NPOのリスクマネジメント講座 2
-----	-------------------

	～やっぱりキレイゴトでは済まされない！！
日 時	令和7年12月5日(金) 15:30～17:00
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター
講 師	佐野 荘一氏 (NPO法人東海道・吉原宿 理事)
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 14団体・個人：NPO法人3、中間支援センター4、個人7 ・ 計14人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 3人
目 的	NPOの現場で実際に生じるリスク事例と対応方法を学び、組織運営におけるリスク対応力の向上を図る。若者や子育て世代が安心して参画できる環境を整えることで、地域への移住・定住促進にもつなげていく。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炎上対応、情報開示請求等の事例 ・ 組織運営上のリスクと対応 ・ ガバナンス、後継者問題 ・ 質疑応答
アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート回答率：78.6% ・ 参加者満足度：講座全体 90.9% ・ 講座内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 63.6%
概 要	<p>NPO運営におけるリスクマネジメントの理解を深めることを目的に開催した。講師からは、炎上対応や情報開示請求、組織内トラブル等の具体的事例が提示され、現実的な視点からリスクへの備えを考える機会となった。アンケートでは理解度向上 100%、満足度 90.9%と高い評価を得ており、参加者からは具体例に基づく学びが有益であったとの声が寄せられた。</p> <p>リスク対応力の向上は、NPOの運営基盤の強化や、若者や子育て世代が安心して活動に参加できる環境づくりにつながり、地域への参画促進や移住・定住の基盤形成に資するものである。</p>

【第5回】テーマ：連携・協働・発信の強化

事業名	人が集まるNPOのつくり方 ～コミュニティマネージャーの現場から～
日 時	令和7年12月18日(木) 13:30～15:30
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター
講 師	亀山 美佐子 氏 (Free Community Manager)
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9団体：NPO法人1、任意団体4、個人4 ・ 計9人

	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 2人
目 的	NPO活動に多様な人材が関わるための仕組みや関係づくりについて学び、人が集まる組織づくりの実践につなげる。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ形成の考え方 ・ 現場事例の紹介 ・ つながりの可視化ワーク ・ 参加者交流
アンケート結果	<p>アンケート回答率：44.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 100%
概 要	<p>NPOにおける人材確保や関係づくりの課題に対応するために開催した。講師からは、コミュニティマネージャーとしての実践経験をもとに、人が関わりやすい場づくりや役割設計の考え方が示された。ワークでは、参加者が自身の関係性を可視化し、今後のつながりの方向性を整理する機会となった。アンケートでは、満足度・理解度・活用意向すべて100%であり、具体的で実践的な学びが得られた。</p> <p>若者や移住者など多様な人材の参画を促す取組は、地域活動の活性化や移住・定住促進に資するものとして重要である。</p>

【第6回】テーマ：連携・協働・発信の強化（ICT講座）

事業名	NPOのための生成AI活用講座（基礎編） — 今日から使える「最初のヒント」—
日時	令和8年3月6日（金）13:30～15:30
場所	ふじのくにNPO活動支援センター
講師	鈴木 真保 氏（みんなの学習環境研究所／インストラクショナルデザイナー／静岡県ICTエキスパート）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8団体：NPO法人4、中間支援センター1、一般社団法人1、任意団体1、個人1 ・ 計9人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 4人
目的	生成AIの基本的な仕組みと活用方法を学び、NPOの日常業務における効率化と運営の質の向上を図る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生成AIの基本と仕組み ・ 活用事例と利用上の留意点 ・ 企画作成の実践演習 ・ 共有・質疑応答

アンケート 結 果	<p>アンケート回答率：100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：講座全体 100% ・ 講座内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 100%
概 要	<p>NPOにおける生成AIの実務活用をテーマに開催した。参加者の多くが活用経験の少ない状況を踏まえ、基礎理解と実践を組み合わせた内容とした。講座では、生成AIの特徴や留意点の解説に加え、企画作成の演習を通じて具体的な活用方法を体験的に学ぶ機会とした。アンケートでは理解度・活用意向ともに100%と高い評価を得ており、業務効率化や企画立案への活用可能性が確認された。</p> <p>生成AIの活用は、NPOの活動基盤の強化につながり、地域活動への取組の充実を促し、移住・定住促進への寄与が期待される。</p>

総括（成果と課題）

NPOを対象とした講座の実施回数： 6回／6回

本事業では、資金調達、研修受入れ、リスクマネジメント、人材確保、ICT活用等をテーマに講座を実施し、実践事例に基づく内容により、参加者が自団体の活動に引き寄せて考える機会を提供した。

研修受入れやコミュニティ形成に関する講座では、関係人口の創出や地域との関係性構築の視点が共有され、移住・定住促進への寄与について理解が深まった。また、資金調達やリスクマネジメントを通じて、組織の持続可能性や信頼性の確保といった基盤の重要性が再認識された。

フォローアップアンケートでは、企画立案や情報発信、資金調達等の場面で活用が進み、具体的な行動変容や他団体との連携意欲の高まりが見られた。

一方で、参加者数が伸び悩む回もあり、テーマ設定や広報の工夫、基礎と実践をつなぐ継続的な学びの機会の充実が課題である。

本事業を通じて、NPOの運営基盤の強化とともに、地域との関わりを生み出す視点が共有され、若者・子育て世代の地域参画や移住・定住促進に資する基盤づくりに一定の成果が得られた。

添付資料

添付5：NPO向け講座等の開催

6 中間支援人材の育成

- ・目的：市町の市民活動センターのスタッフ等の中間支援業務従事者等を対象に、中間支援力の向上に資するテーマをニーズ等をふまえて設定し、中間支援スタッフ集合研修を実施する。
また、中間支援業務従事者同士の交流の促進、連携の機会の創出等を目的として、交流会等を実施する。
研修及び交流会等は、静岡県が国に申請する新しい地方経済・生活環境創生交付金のテーマ「若者・子育て世代の移住定住促進」に資するものとする。
- ・対象：市町の市民活動センタースタッフ等の中間支援業務従事者等
- ・実施結果：「若者・子育て世代の移住・定住促進」に資する研修等 6回実施
【第1回】テーマ：ICTの活用と法的知識の強化

事業名	NPO支援に向けた知的財産権講座 — 若者・子育て世代が安心して関わる団体運営のために —
目的	中間支援スタッフが知的財産権の基礎知識を習得し、NPOからの相談に対する初期対応力を向上させる。
日時	令和7年7月11日(金) 13:30~15:00(90分)
場所	オンライン会議システム (Zoom ミーティング)
講師	中村 宏之 氏 (INPIT 静岡県知財総合支援窓口 沼津窓口 窓口支援担当者)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9団体：中間支援 7、担当課 2 ・ 計10人：オンライン 7人、アーカイブ 3人 ・ その他：静岡県 県民生活課 1人、FNC 4人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産権 (特許・商標・著作権等) の基礎 ・ J-PlatPat の活用方法 ・ 相談窓口の紹介
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> アンケート回答率：50% ・ 参加者満足度：研修全体 100% ・ 研修内容の理解度向上 100% ・ 業務・活動への活用意向 100%
概要	<p>知的財産権に関する基礎知識と、特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) の活用方法を学ぶ研修として実施した。</p> <p>NPOの名称やロゴ、広報物に関わる相談に対応する上で必要となる知識を整理し、実務に即した初期対応の視点を共有した。参加者からは、著作権や商標に関する理解が深まり、相談対応に活用できるとの評価が多く寄せられた。</p>

	前年度講座からの継続的な取組として、県内中間支援における知財意識の向上にもつながっている。
--	---

【第2回・第3回】 テーマ：多主体連携のコーディネート力向上

事業名	中間支援組織のこれからと新たな事業モデルを考える戦略会議 ～若者・子育て世代の移住・定住促進に資する協力の仕組みづくりを例に～
目的	中間支援組織が多主体連携のコーディネート力を高め、地域課題に対応した事業構想を実践につなげる。
日時	【第1回】 令和7年10月7日（火）14:00～16:30（150分） 【第2回】 令和7年12月9日（火）14:00～16:30（150分）
場所	ふじのくにNPO活動支援センター
講師	松原 明 氏（NPO法人協力アカデミー 代表）
参加者	・ 9団体：NPO法人2、中間支援センター5、任意団体1、個人1 ・ 計11人 ・ その他：所轄庁1人、FNC4人
内容	【第1回】 課題共有と協力フレームの学習 ※第1回と第2回の間は、LINE オープンチャットを活用したフォローアップを実施 【第2回】 事業提案の検討とブラッシュアップ
アンケート結果	アンケート回答率：54.5% ・参加者満足度：研修全体 100% ・研修内容の理解度向上 100% ・業務・活動への活用意向 100%
概要	全2回の連続研修として、地域課題の整理から事業構想の検討までを実践的に行った。 参加者は事前に自地域の課題を持ち寄り、協力フレームを活用して関係者構造の整理や解決の方向性を検討した。第2回では各自の提案を発表し、講師および参加者同士の意見交換を通じて内容をブラッシュアップした。 多主体連携の具体的手法を学ぶとともに、各地域での実践に向けた基盤づくりにつながった。

【第4回】 テーマ：新たなNPOセンターの役割

事業名	地域NPOと若者をつなぐための中間支援の役割と実践手法 ～若者参画を促す視点と手法を学び、地域のNPO支援に生かす～
目的	若者と地域NPOをつなぐための中間支援の役割と実践手法を学び、支援力の向上を図る。

日 時	令和8年1月28日(水) 13:30~15:30 (120分)
場 所	ふじのくにNPO活動支援センター
講 師	高城 芳之 氏 (NPO法人アクションポート横浜 代表理事)
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 14 団体：NPO法人2、中間支援センター3、一般社団法人2、任意団体1、行政5 (うちNPO担当課3)、個人1 ・ 計19人：対面2人、オンライン13人、アーカイブ4人 ・ その他：所轄庁1人、FNC4人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 (若者参画の事例) ・ 参加者同士の意見交換 ・ 全体共有・ふりかえり
成果指標	<p>アンケート回答率：47.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者満足度：研修全体 88.9% ・ 研修内容の理解度向上 88.9% ・ 業務・活動への活用意向 88.9%
概 要	<p>若者参画をテーマに、中間支援組織の役割と具体的な関わり方について学ぶ研修として実施した。</p> <p>講義では、若者の参加動機や地域活動における意義、関係構築のポイントについて事例を交えて整理された。意見交換では、各地域の現状や課題を共有しながら、中間支援としての関わり方について理解を深めた。</p> <p>若者参加を単なる担い手確保にとどめず、関係づくりのプロセスとして捉える視点が共有され、県内各地での実務への展開が期待される。</p>

【第5回】テーマ：ICTの活用と法的知識の強化

事 業 名	NPO相談対応スキルアップ研修：ミッション達成を見据えたNPOの支援方法～新たな人材の参画、後継者問題等を見据えた立ち上げ、運営の相談実務～
目 的	NPOのライフサイクルを踏まえた相談対応の視点を共有し、中間支援スタッフの対応力向上を図る。
日 時	令和8年2月17日(火) 13:30~15:10 (100分) ※終了後、希望者による自由意見交換 (15:10~15:40)
場 所	オンライン会議システム (Zoom ミーティング)
参 加 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 団体：中間支援7、担当課2 ・ 計13人 ・ その他：所轄庁3人、FNC4人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題提供 (県内NPOの現状と課題の共有) ・ 意見交換 (ライフサイクル別)

	・全体整理
成果指標	アンケート回答率：46.2% ・参加者満足度：研修全体 100% ・研修内容の理解度向上 100% ・業務・活動への活用意向 100%
概要	NPOの設立から解散までのライフサイクルを踏まえた相談対応の視点を共有する研修として実施した。 所轄庁（県）からの話題提供により現状と制度運用を確認した上で、参加者同士が各段階における相談事例や課題を持ち寄り、対応の考え方を整理した。後継者不足や制度対応など複雑化する相談に対し、単なる手続き支援にとどまらない見立ての重要性が共有され、実務に直結する学びの機会となった。今後の継続的な事例共有の必要性も確認された。

【第6回】テーマ：ICTの活用と法的知識の強化（ICT研修）

事業名	中間支援スタッフ向けICT研修：若者を巻き込む情報発信の実践—ショート動画制作を通じた参加促進と関係づくり—
目的	ICTを活用した情報発信手法を学び、若者参加を促す中間支援の取組に活かす。
日時	令和8年2月26日（木）13:30～15:30（120分）
場所	ハイブリッド開催（対面／オンライン） ・対面：浜松市市民協働センター スタジオ （浜松市中央区中央1丁目13-3） ・オンライン：Zoom ミーティング
講師	鈴木 恵子 氏（浜松市市民協働センター 副センター長） 鈴木 知泰 氏（浜松市市民協働センター 管理部リーダー）
参加者	・8団体：中間支援4、担当課3 ・計14人 ・その他：所轄庁1人、FNC4人
内容	・事例紹介（動画活用） ・動画制作の基礎（撮影・編集） ・意見交換
成果指標	アンケート回答率：42.9% ・参加者満足度：研修全体 100% ・研修内容の理解度向上 83.3% ・業務・活動への活用意向 83.3%
概要	ショート動画を活用した情報発信と若者参加の促進をテーマに実施し

	<p>た。事例紹介を通じて、動画制作に若者が関わるプロセスや運用の工夫が示され、情報発信を通じた関係づくりの視点が共有された。また、実践的な内容により動画活用への理解が深まり、参加者は自団体での活用イメージを具体化することができた。</p> <p>I C Tは情報発信にとどまらず、新たな参加のきっかけを生み出す手法となり得ることが確認された。</p>
--	--

総括（成果と課題）

市民活動センター等を対象とした研修や交流事業の実施回数： 6回／6回

本事業では、知的財産権、I C T活用、多主体連携、若者参画、相談対応等をテーマに研修を実施し、事例共有や意見交換を通じて実務に即した学びの機会を提供した。

特に、多主体連携研修では事業構想の具体化につながり、若者参画やI C T活用の研修では関係づくりや情報発信の新たな視点が共有された。また、知的財産権講座を契機に商標登録に至った事例が生まれるなど、研修成果の実務への波及も確認された。

一方で、業務と並行したオンライン参加が中心で離席も多く、参加状況にばらつきが見られたことから、アーカイブ配信により学びの補完を図った。

フォローアップアンケートでは、相談対応や事業企画等への活用が見られ、センター間の情報共有や連携意識の向上にもつながっている。

今後は、業務と両立しやすい実施方法や段階的な研修設計、継続的な情報共有の場の充実が求められる。

本事業を通じて、中間支援スタッフの対応力向上とネットワークの強化を図ることができた。地域におけるN P O支援の質の向上につながるものであり、若者・子育て世代が地域と関わる機会の創出や、移住・定住促進を支える基盤形成に寄与した。

添付資料

添付6：中間支援人材の育成

7 NPOと企業等とのマッチング支援

目的：企業内人材等のNPOへの参画支援を図り、県民の活躍の機会の創出と企業の社会貢献ニーズの補完、NPO活動の活性化に向けた取組を行う。

NPOと企業等との交流会を1回実施して出会いの場づくりを行う。その後、連携希望のNPOと企業等のマッチングを支援し、連携・協働が進むように伴走支援する。

本取組は、静岡県が国に申請する新しい地方経済・生活環境創生交付金のテーマ「若者・子育て世代の移住定住促進」に資するものとする。

実施結果：「企業と若者団体とのマッチング交流会」の開催

事業名	つながる 若者団体×企業 マッチング交流会
日時	令和8年2月24日(火) 15:45～17:45
場所	コミュニティホール七間町 MIRAIE リアン
講師	事例発表 一般社団法人草薙カルテッド 小林 祐介 氏
参加者	54人(属性：NPO24、企業13、個人9、行政4) ※その他：FNC3人 担当課1人
目的	企業内人材等のNPOへの参画を促進し、県民の活躍機会の創出および企業の社会貢献ニーズへの対応を図るとともに、NPO活動の活性化につなげることを目的とする。
内容	参加者が関心のあるテーマのテーブルに分かれて意見交換を行うグループワーク形式とした。団体が日頃の活動の中で感じている課題や関心テーマを共有し、それに対して企業関係者や他団体、支援者など多様な立場の参加者が意見やアイデアを出し合う形で交流を行った。 最後に全体でまとめを行い、各団体が得た気づきや意見を共有した。
アンケート結果	アンケート回答率：31.9% ・参加者満足度(10点満点中6点以上)：73.3%
概要	本交流会は、社会貢献活動を行う若者団体と企業、支援者等が直接意見交換を行うことで、団体の課題解決のヒントや新たな連携の可能性を探ることを目的として開催した。団体同士および企業等との交流を通じた学びの場となり、その後の連携も生まれた。

総括(成果と課題)

NPOと企業等との交流会の実施回数： 1回/1回

本事業では、若者団体と企業等とのマッチング交流会を実施し、多様な立場の参加者が直接対話する機会を創出した。グループワーク形式により、若者団体が抱える課題に対して企業や支援者から具体的な意見やアイデアが寄せられ、相互理解の促進とともに、新た

な連携の可能性を探る場となった。参加者からも「多様な視点から課題を考えることができた」「新たな気づきを得られた」といった声があり、学びと交流の両面で一定の成果が見られた。

また、交流会を契機として、企業側のネットワークに若者団体が参画するなど、具体的な協働に向けた動きも生まれている。実際に、地域の企業団体による事業の実行委員会に若者が参画し、企画段階から意見提案や運営に関わるなど、継続的な関係構築と実践的な協働へと発展している事例が確認されており、本事業が単なる出会いの場にとどまらず、具体的なアクションにつながる機会となった。

一方で、「グループワークの進め方の事前共有」「ファシリテーターの配置」「より多くの参加者と交流できる仕組み」など、場の設計や運営面に関する課題が挙げられた。また、企業と若者団体のニーズのすり合わせや関係性構築には継続的な働きかけが必要であり、単発の交流にとどまらない仕組みづくりが求められる。

今後は、交流の質を高めるためのファシリテーション体制の強化やプログラム設計の見直しに加え、交流会後のフォローアップや伴走支援を充実させることで、具体的な協働の創出につなげていく必要がある。

添付資料

添付7：NPOと企業等とのマッチング支援

8 若者・移住者・女性のNPO参画支援の横展開

目的：NPO等社会貢献活動への若者・移住者、女性参加促進を担う県内中間支援等の機能に役立ててもらおう。

対象：県内中間支援スタッフ、行政、NPO等関係者

実施結果：各支援当事者による報告会の開催 2回

1) 若者・移住者のNPO参画支援について

事業名	若者・移住者のNPO参画支援に関する中間支援のオンライン情報共有会
日時	令和8年3月11日(水) 13:30~14:30
場所	Zoomによるオンライン開催
発表等	ふじのくにNPO活動支援センター
参加者	一般参加者11名 静岡県担当課1名 FNC3名
目的	業務で得た知識、経験、ノウハウ等を他の中間支援等と共有する
内容	1. FNC実施事業の報告(事例、エピソード、課題) 2. 参加者の自己紹介と関連事業の紹介
概要	<p>既存NPOとのマッチング手法と課題、自立に向けての伴走支援について説明した。本年度は既存団体の社会貢献活動への希望者には事前にヒヤリングを実施し、日時、地域、活動分野の確認を行った。主な参加者は10~20代の高校生や大学生であり、市センターの協力を得るなどしてマッチング件数は20件を超えた。希望に沿ったNPOや活動を提供するには調整にかなりの時間を要することもあった。効率的なマッチングには、期間限定募集にすることも必要かもしれない。参加者の感想は概ね良好だった。</p> <p>各中間支援が実施している移住者・若者支援について</p> <p><u>菊川市市民協働センター</u>：毎年実施している中・高校生対象の「社会貢献体験事業」において、体験に先立つ事前学習会はNPOに対する理解を深めたり、自分を見つめる機会として有益であった。課題としては、夏休み限定開催のため日常的な参加希望に応えられるようにプログラムを拡大する必要がある。</p> <p><u>磐田市市民活動センター</u>：中学生対象に市内団体を紹介し、各20時間社会貢献活動を提供している。50人募集に70人応募があり関心は高い。課題は、プログラム終了後の活動継続性である。入試等に有利といわれるボランティア証明書取得が動機の場合も多い。</p> <p><u>富士市民活動センター</u>：特別な若者向けプログラムの実施なし。富士市内に大学が存在しないこともあり、センターと若者と直接接点はな</p>

	<p>い。NPO側も学生とのマッチングを求めている様子がないが、一部の学生による社会貢献活動への積極的参加、食料配布へのボランティア高校生等の若者参加は認められる。</p> <p><u>御前崎市企画政策課</u>：若者支援推進を検討しているため本勉強会に参加した。すでに社会教育課が中心となり中学生対象のプログラムを実施している。また、若者対象の補助金交付制度もあり、社会貢献活動の励みになっている。</p> <p><u>沼津市協働推進係</u>：市内には13高校が存在する。沼津市民間まちづくり活動支援事業のメニューに若者団体対象に特化したものがあり、補助事業を通じて若者活動支援を行っている。</p> <p><u>まとめ</u></p> <p>少子高齢化の中で、人口流出が顕著な地方都市では若者や移住者に地域貢献を奨励するプログラムが増加している。社会貢献を通じて地域への愛着を育み、将来的な定住促進を目的とする。中間支援組織はNPOを通じて社会・地域貢献への参加の機会を若者に提供しているが、各センターはそれぞれの仕組みの中で実施している。今後、県内中間支援組織間でマッチングの仕組みや若者への情報提供についての情報共有をより密に行い、連携が可能なプログラムについては協働実施し、どの若者も次のステップアップにつながる有益な体験を得ることができるマッチングの機会提供を目指したい。</p>
--	---

2) 女性のNPO参画支援について

事業名	2025 女性のNPO参画支援に関するオンライン勉強会
日時	令和8年3月11日(水) 14:45~15:45
場所	Zoom によるオンライン開催
発表等	ふじのくにNPO活動支援センター
参加者	一般参加者8名 県担当課1名 FNC3名
目的	業務で得た知識、経験、ノウハウ等を他の中間支援等と共有する
内容	<p>1. FNC実施事業の報告(事例、エピソード、課題)</p> <p>2. 参加者の自己紹介と関係事業の紹介</p>
概要	<p>一般企業に比較して、非営利セクターで女性が活躍する割合は高く、女性リーダーの活躍も目立つ。このような現状から、NPO等で活躍する女性をさらに増加させることを目的に、令和6年度、7年度と本事業は企画・実施された。しかし、ジェンダーフリーの風潮が高まる中で事業名称には違和感があった。勉強会への参加中間支援組織は、どこも「女性」を事業名に盛り込んだ経験はないということであった。本勉強会の集客が困難だったのもそこに原因があると考えられる。</p>

総括（成果と課題）

講座の実施回数： 2回／2回

本事業で得たノウハウを県内中間支援と共有するという目的で開催された。類似の事業を実施しているセンターや、今後実施を検討している市町の間では積極的な意見交換が行われた。中高生のNPO参画支援は県域よりも市町レベルでの実施が効果的である。当センターの若者支援は結果的に大学生以上がほとんどであり、市町が実施する低年齢層の若者支援と連携することで、途切れのない若者支援が可能になる。

ジェンダー含めたダイバーシティ（多様性）を認めた上で、市町センターと連携してのきめ細やかなNPO参画支援の必要性は高い。

添付資料

添付8：若者・移住者・女性のNPO参画支援の横展開

添付資料

添付1：若者・移住者のNPO参画支援

- ・NPO地域貢献活動体験プロジェクト：参加者リスト
- ・ワークショップ：事業報告書、参加者名簿

添付2：NPOにおける女性リーダー等の活躍支援

- ・NPO女性リーダー活動支援プログラム（全6回）：事業報告書、参加者名簿

添付3：NPOの広域ネットワーク化支援

<テーマ1：子育て支援>

- ・子育て支援ネットワーク交流会（3回）：事業報告書、参加者名簿
- ・静岡県 子育て支援団体マッピング：地図

<テーマ2：若者>

- ・しぞーかわかもの図鑑発刊記念フォーラム：事業報告書、参加者名簿
- ・しぞーかわかものアクションアワード：事業報告書、参加者名簿
- ・若者団体アワード実行委員会：実施報告

<テーマ3：竹林>

- ・しぞおか竹ネットワーク交流会&フォーラム：事業報告書、参加者名簿
- ・竹林整備勉強会（3回）：事業報告書、参加者名簿
- ・しぞおか竹ネットワーク：SNS実績集計表

添付4：NPOに関わる女性リーダー等の広域ネットワーク化支援

- ・2025NPO女性リーダー交流会：事業報告書、参加者名簿

添付5：NPO向け講座等の開催

- ・NPO向け講座（全6回）：事業報告書、参加者名簿

添付6：中間支援人材の育成

- ・中間支援スタッフ研修（全6回）：事業報告書、参加者名簿

添付7：NPOと企業等とのマッチング支援

- ・マッチング交流会：事業報告書、参加者名簿

添付8：若者・移住者・女性のNPO参画支援の横展開

- ・報告会（2回）：事業報告書、参加者名簿

